

審査意見への対応を記載した書類（6月）

（目次）獣医学研究科 獣医保健看護学専攻（M）

【教育課程等】

1. 演習科目として配置されている「いきものQOLラボ特別演習」について、シラバスを見ると、本授業科目の達成目標に「デバイスのコンセプトを立案し、開発を目指す」ことを掲げ、第4回の「プログラミング研究」において、デバイス設計に必要なプログラミングに関する内容が設けられている。しかしながら、プログラミングに関する授業は第4回の1回のみであり、その後の授業回で行う研究開発計画書の作成等に必要な能力を適切に身に付けることができる授業構成となっているのか疑義がある。このため、本授業科目の教育課程上の位置付けや目的を踏まえた上で、設定された目標を達成することができる適切な授業内容となっていることについて説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
2. 設置の趣旨等を記載した書類（本文）の「Ⅶ. 入学者選抜の概要」において、秋入学を実施することが説明されているが、秋入学の学生に対する研究指導計画やカリキュラムを踏まえた履修モデル等のスケジュールや計画が示されておらず、本課程に入学する全ての学生に対して、適切なカリキュラムが提供され、研究指導が実施されるのか判断することができない。このため、設置の趣旨等を記載した書類（資料）で示された「資料2-1 カリキュラムツリー」との整合性を踏まえつつ、「資料8-1 入学から修了までのスケジュール」について秋入学を踏まえた資料を示しながら、秋入学の学生に対する入学前から修了までの研究指導や履修指導について、適切な体制や計画となっていることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。【研究科共通】（是正事項）11
3. 設置の趣旨等を記載した書類（資料）の資料8-1「獣医学研究科修士課程 入学から修了までのスケジュール」において示された、修了年次以外の秋学期に作成・審査することとなっている「大学院生研究活動報告書」について、設置の趣旨等を記載した書類（本文）に関連する説明が見受けられないことから、本報告書が本課程の研究指導においてどのように位置付けられ、学生の研究活動や評価に関わるものであるのか判断することができない。このため、「大学院生研究活動報告書」について、学生の研究活動の中でどのように位置付けられ、評価等にどのように活用されるものであるのか具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。【研究科共通】（改善事項）・・・・・・・・・・13
4. シラバスについて、例えば授業科目「飼育動物学特論」の第2～4回目の授業内容が、「伴侶動物における諸問題」に（1）～（3）の連番を付したのみの記載となっているなど、各回の授業内容が不明瞭である授業科目が散見されることから、学生が当該授業科目

を選択し履修するに当たって、当該授業科目で何を学び何を身に付けることができるのかが明確に分かるよう、各回の授業内容を網羅的に見直した上で具体的に示すこと。(改善事項)・・ 21

5. 設置の趣旨等を記載した書類(本文) P13の「(1) 専門科目」において「特論科目から1科目を選択必修とする」旨の説明がなされているが、基本計画書の教育課程等の概要における「卒業要件及び履修方法」には選択必修に関する記載が見受けられず、本課程の適切な修了要件が設定されているとは判断できない。このため、本課程の修了要件を明確に示すとともに、必要に応じ、関連する各資料の記載について適切に改めること。(是正事項)・・ 42

【入学者選抜】

6. 設置の趣旨等を記載した書類(資料)の資料1-1(ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、及び養成する人材像との相関)において、本課程のアドミッション・ポリシー「A. 知識・理解」について「専門的な日本語・英語力を身に付けている」ことを掲げている。しかしながら、設置の趣旨等を記載した書類(本文) P25に示された「入学者選抜の基本方針」では、例えば、推薦入試については「学士課程相当の動物看護学、又は公共獣医事、動物科学、生命科学分野の基礎的事項の修得状況」や「基礎知識を使いこなす能力」、「学習・研究に関する意欲と能力」等を評価することが示されているものの、一般入試や社会人特別選抜に示されている「科学技術分野に関わる英語の能力」が、推薦入試には示されていないことから、アドミッション・ポリシーに掲げる能力を適切に確認することができる入学者選抜となっているのか疑義がある。さらに、本課程のアドミッション・ポリシーにおいて「特別研究を遂行するために必要なコミュニケーションスキル」を有することを掲げる一方で、入学者選抜における推薦入試の選考方法は「書類審査」のみであり、アドミッション・ポリシーに掲げられた資質・能力を、「書類審査」によってどのように評価することができるのか説明がなされていないことから、選考方法の妥当性にも疑義がある。このため、本課程が定めるアドミッション・ポリシーについて、入学時において全ての学生に求めるものであるのか、又はアドミッション・ポリシーのいずれかを中核的な資質・能力として設定した上で、当該資質・能力を全ての学生に求めつつ、他のアドミッション・ポリシーについて選抜区分ごとに異なる比重で判定するものであるのかを明らかにした上で、前者であれば各入学者選抜において、本課程の定める各アドミッション・ポリシーに対応した資質・能力が「入学者選抜の基本方針」に掲げられ、当該資質・能力を適切に身に付けていることを確認することができる選考方法が設けられていることについて改めて明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。後者である場合には、判定しない又は極めて比重の低いアドミッション・ポリシーに掲げる資質・能力を持つ学生に対して、どのようにディプロマ・ポリシー

の達成を担保するののかについて、適切なカリキュラム・ポリシーと教育課程が編成されていることを含めて説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。(是正事項)・・44

(是正事項) 獣医学研究科 獣医保健看護学専攻 (M)

1. 演習科目として配置されている「いきもの QOL ラボ特別演習」について、シラバスを見ると、本授業科目の達成目標に「デバイスのコンセプトを立案し、開発を目指す」ことを掲げ、第4回の「プログラミング研究」において、デバイス設計に必要なプログラミングに関する内容が設けられている。しかしながら、プログラミングに関する授業は第4回の1回のみであり、その後の授業回で行う研究開発計画書の作成等に必要な能力を適切に身に付けることができる授業構成となっているのか疑義がある。このため、本授業科目の教育課程上の位置付けや目的を踏まえた上で、設定された目標を達成することができる適切な授業内容となっていることについて説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

是正事項をふまえ、本授業科目の教育課程上の位置づけや目的に合わせて、講義目的、達成目標を改めるとともに、授業内容の一部を改める。

本専攻の養成する人材像のうち「公共獣医事・感染症・公衆衛生を扱うパブリックヘルスサイエンスやライフサイエンス分野において多角的な視点から研究の計画・遂行・考察を行うことができるライフサイエンス・パブリックヘルスサイエンス研究者を含む獣医関連科学研究者」の養成のため、「いきもの QOL ラボ特別演習」は、カリキュラム・ポリシー：C 関心・意欲・態度において「獣医保健看護学が貢献できる社会問題に関連する現象や問題に対する科学的な興味、主体性・協調性、倫理観を育成する」科目のうちの選択科目と位置づけている。

したがって、この特別演習は、科学的な興味、主体性・協調性を養うため、デバイス開発というテーマを用い、グループ内での議論を通じて、能動的に目標達成のための道筋を構築することを目指すものである。これをふまえ、授業科目の概要において、当該科目の概要に記載した目的を「3) 共同研究を通じて問題解決に向けたデバイスのコンセプトを立案し、開発を目指す」から「3) 問題解決に向けたデバイスのコンセプトを立案し、開発計画を立てる」に修正し、第4回目の担当回の内容も改める。また、修正前のシラバスでは講義目的と達成目標に「デバイスのコンセプトを立案し、開発を目指す」と記載したが、是正意見を受けて、養成する人材像及び教育課程上の位置づけをふまえ、講義目的を「デバイスのコンセプトを立案し、開発計画を立てる」に、また達成目標を「共同研究を基盤とした開発計画を説明できる」に修正する。この目標（研究開発計画を立てる）を到達するために必要な能力には、1) センサーデバイスとそれを操作するためのコンセプトの理解、2) 関連法律とマーケティング戦略に関する基礎知識、3) 開発グループ及び共同研究者とのコミュニケーション、4) 研究開発計画書の作成技能を含む。したがって、第4回目の授業で取り扱う内容をプログラミング技術よりも、センサーデバイスとそれを操作するための技術としてのプ

プログラミング概念であることを明確にする。これにより、第4回で実施する1回分の授業を含めた15回の授業で研究開発計画書の作成に必要な能力が涵養できる授業構成になるよう修正する。

さらに博士課程における「獣医いきものQOLラボ特別演習」との相違点を含めて、本授業科目にて身に付けることのできる専門性を明確にするため、シラバスの授業内容（第2回から7回、及び第12回から15回）において各回で何を学ぶのか詳細な記述を加える。

また、設置の趣旨等を記載した書類「IV.3 授業科目とディプロマ・ポリシーの対応」の獣医保健看護学専攻(3)演習科目における当該科目の説明および「V.1 教育方法」の獣医保健看護学専攻（修士課程）における説明を修正する。

授業科目の概要			
(獣医学研究科 獣医保健看護学専攻 修士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目	いきものQOLラボ特別演習	<p>工学系教員との共同研究立案プロセスを通じて、獣医保健看護学専門家が目標とするいきものQOL向上を目指す上での研究の推進に障害となる様々な問題を発見し、それらの解決のための手法とプロセスを考察することを目的とする。1) 「ものづくり」の基盤となる基本的な技術のコンセプトを修得する。2) 特別研究を通じて教育病院、実験室、フィールドにおいて業務遂行に障害となっている問題を見いだす。3) 問題解決に向けたデバイスのコンセプトを立案し、開発計画を立てる。4) 問題解決手段に関する法律の視点からの考察を行う。 (全15回：オムニバス)</p> <p>① 江藤真澄／7回 獣工連携の将来性といきものQOLプロジェクトの概要の解説と履修者の修学目標設定を行う。用意された書式に沿って研究開発計画書を作成し、それらを互いに精読し、長所と改善点をリストアップする。教員が座長となり、各自の研究計画書の模擬ピア・レビュー審査会を行う。各自の開発計画を組み合わせる一つの開発テーマにすることを協議する。グループテーマにするために必要な準備を行う際のグループ内で役割をきめる。グループテーマのプレゼンテーション準備のためのディスカッションを行う。発表のアウトラインを作成する。</p> <p>② 水野理介／1回 獣医療と関連分野における現在と将来の課題について議論することで演習を行う。</p> <p>① 江藤真澄、② 水野理介／1回 (共同) グループで準備したプレゼンテーションを発表することで演習を行う。</p> <p>① 江藤真澄、27 赤木徹也／2回 (共同) 獣医保健看護分野が関連する獣医療工学／獣医療福祉工学において有用な生体センサーとなり得るデバイスの概要について、デバイス研究開発計画書作成に必要なセンサー制御プログラムについて、センサーから送信される信号の解析アルゴリズムの基本について議論することで演習を行う。</p> <p>① 江藤真澄、② 水野理介、27 赤木徹也／4回 獣医保健看護学が関連する5つのデバイス案を決定、デバイスの研究開発の詳細についてプレゼンテーション、修正したデバイスの研究開発の詳細についてプレゼンテーション・質疑を行い、ピア・レビューで評価する共に総括・公開発表会：獣医保健看護学科、獣医学研究科と理工学研究科の教員・学生に対してグループ発表を行い、質疑応答を行うことで演習を行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

授業科目の概要			
(獣医学研究科 獣医保健看護学専攻 修士課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目	いきものQOLラボ特別演習	<p>工学系教員との共同研究立案プロセスを通じて、獣医保健看護学専門家が目標とするいきものQOL向上を目指す上での研究の推進に障害となる様々な問題を発見し、それらの解決のための手法とプロセスを考察することを目的とする。1) 「ものづくり」の基盤となる基本的な技術のコンセプトを修得する。2) 特別研究を通じて教育病院、実験室、フィールドにおいて業務遂行に障害となっている問題を見いだす。3) <u>共同研究を通じて問題解決に向けたデバイスのコンセプトを立案し、開発を目指す</u>。4) 問題解決手段に関係する法律の視点からの考察を行う。</p> <p>(全15回：オムニバス)</p> <p>(3 江藤真澄／7回)</p> <p>獣工連携の将来性とVPPいきものQOLプロジェクトの概要の解説と履修者の修学目標設定を行う。用意された書式に沿って研究開発計画書を作成し、それらを互いに精読し、長所と改善点をリストアップする。教員が座長となり、各自の研究計画書の模擬ピア・レビュー審査会を行う。各自の開発計画を組み合わせて一つの開発テーマにすることを協議する。グループテーマにするために必要な準備を行う際のグループ内で役割をきめる。グループテーマのプレゼンテーション準備のためのディスカッションを行う。発表のアウトラインを作成する。</p> <p>(17 水野理介／1回)</p> <p>獣医療と関連分野における現在と将来の課題について議論することで演習を行う。</p> <p>(3 江藤真澄、17 水野理介／1回) (共同)</p> <p>グループで準備したプレゼンテーションを発表することで演習を行う。</p> <p>(3 江藤真澄、27 赤木徹也／2回) (共同)</p> <p>獣医保健看護分野が関連する獣医療工学／獣医療福祉工学において有用な生体センサーとなり得るデバイスの概要について、<u>デバイス設計に必要なプログラミングについて、センサーから送信される信号の解析アルゴリズムの基本について議論する</u>することで演習を行う。</p> <p>(3 江藤真澄、17 水野理介、27 赤木徹也／4回)</p> <p>獣医保健看護学が関連する5つのデバイス案を決定、デバイスの研究開発の詳細についてプレゼンテーション、修正したデバイスの研究開発の詳細についてプレゼンテーション・質疑を行い、ピア・レビューで評価する共に総括・公開発表会：獣医保健看護学科、獣医学研究科と理工学研究科の教員・学生に対してグループ発表を行い、質疑応答を行うことで演習を行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

(新旧対照表) シラバス 【新】

授業科目	いきものQOLラボ特別演習			必修選択	選択
英文科目名	QOL For All Lives Workshop				
対象研究科専攻/対象年次	獣医学研究科獣医保健看護学専攻/1・2年	単位数	2	開講期	通
担当教員	江藤真澄(科目責任者)、水野理介、赤木徹也(兼担)			授業形態	演習
講義目的	工学系教員との共同研究立案プロセスを通じて、獣医保健看護学専門家が目標とするいきもののQOL向上を目指す上での研究の推進に障害となる様々な問題を発見し、それらの解決のための手法とプロセスを考察することを目的とする。1) 「ものづくり」の基盤となる基本的な技術のコンセプトを修得する。2) 特別研究を通じて教育病院、実験室、フィールドにおいて業務遂行に障害となっている問題を見いだす。3) 問題解決に向けたデバイスのコンセプトを立案し、開発計画を立てる。4) 問題解決手段に関係する法律の視点からの考察を行う。				
達成目標	1) 「ものづくり」の基盤となる基本的な技術のコンセプトを修得する。2) 特別研究を通じて教育病院、実験室、フィールドにおいて業務遂行に障害となっている問題を見いだす。3) 共同研究を通じて問題解決に向けたデバイスのコンセプトを立案し、共同研究を基盤とした開発計画を説明できる。4) 問題解決手段に関係する法律の視点からの考察を行う。(全てディプロマ・ポリシーのCに最も強く関連する)				
成績評価	本演習の担当教員が内容と成果を客観的に評価し、各分野に関する専門知識とプレゼンテーション能力が獲得ができていると判断できる場合はその到達度に応じて、セミナーや発表会での発表と質疑応答も合わせて総合的に評価する(100%)。				
回	授業内容	準備学習			
1	オリエンテーション：獣工連携の将来性とVPPいきものQOLプロジェクトの概要の解説と履修者の修学目標設定を行う。(江藤)	医学と工学が融合した医工連携の実施例を調査し、その結果に基づいて自分の研究に沿って考察しておくこと。(60分程度)			
2	獣医関連課題研究：獣医療と関連分野における現在と将来の課題、それを解決するために必要とされるデバイスについて議論する。(水野)	自分の興味のある獣医学分野における課題について考えておくこと。(60分程度)			
3	センサーデバイス研究：獣医保健看護分野が関連する獣医療工学/獣医療福祉工学において有用な生体センサーとなり得るデバイスの概要と具体的な制作例について議論する。(赤木・江藤)	医療工学/医療福祉工学において使われているデバイスについて調査しておくこと。(60分程度)			
4	デバイス制御研究：デバイス設計に必要なセンサーから送信される信号の解析アルゴリズムの基本について議論する。デバイスに装着するマイコンよりセンサーの時間解像度、感度、及び信号特性を検知し、数値ファイルとして保存するために必要なアルゴリズムの構造に関して講義をし、実際のデバイスを用いてパラメータの調整概念を学ぶ。(赤木、江藤)	センサーデバイスについて復習すると共に、それら进行操作するマイコンの基本について予習すること。(60分程度)			
5	関連法律研究：獣医保健看護学が関連する獣医療工学/獣医療福祉工学に関連するデバイスに関連した法律について、愛媛県産業技術研究所で行っている共同開発事業における具体的な開発事例を検証しながら議論する。(江藤)	獣医療分野における法的な問題事例について調査しておくこと。(60分程度)			
6	マーケティング研究：獣医保健看護学が関連する医療・獣医療関連商品開発の可能性と産学官連携の愛媛県における事例を講義し、デバイス研究開発計画書を作製するに当たって必要な事項をマーケティングの視点から考察する。(江藤)	指定される基本的なマーケティング概念に関する資料を読んでおくこと。(60分程度)			
7	ブレインストーミング：1～6回の授業内容と自らの調査結果に基づき、各自が獣医保健看護学が関連する5つのデバイス案を発表する。発表内容について質疑したのちに一つのテーマを決定する。(江藤、水野、赤木)	獣医療工学/獣医療福祉工学をベースとしたデバイス案を5つ用意すること。(60分程度)			

(新旧対照表) シラバス 【旧】

授業科目	いきものQOLラボ特別演習			必修選択	選択
英文科目名	QOL For All Lives Workshop				
対象研究科専攻/対象年次	獣医学研究科獣医保健看護学専攻/1・2年	単位数	2	開講期	通
担当教員	江藤真澄(科目責任者)、水野理介、赤木徹也(兼担)			授業形態	演習
講義目的	工学系教員との共同研究立案プロセスを通じて、獣医保健看護学専門家が目標とするいきもののQOL向上を目指す上での研究の推進に障害となる様々な問題を発見し、それらの解決のための手法とプロセスを考察することを目的とする。1) 「ものづくり」の基盤となる基本的な技術のコンセプトを修得する。2) 特別研究を通じて教育病院、実験室、フィールドにおいて業務遂行に障害となっている問題を見いだす。3) 共同研究を通じて問題解決に向けたデバイスのコンセプトを立案し、開発を目指す。4) 問題解決手段に関係する法律の視点からの考察を行う。				
達成目標	1) 「ものづくり」の基盤となる基本的な技術のコンセプトを修得する。2) 特別研究を通じて教育病院、実験室、フィールドにおいて業務遂行に障害となっている問題を見いだす。3) 共同研究を通じて問題解決に向けたデバイスのコンセプトを立案し、開発を目指す。4) 問題解決手段に関係する法律の視点からの考察を行う。(全てディプロマ・ポリシーのCに最も強く関連する)				
成績評価	本演習の担当教員が内容と成果を客観的に評価し、各分野に関する専門知識とプレゼンテーション能力が獲得ができていると判断できる場合はその到達度に応じて、セミナーや発表会での発表と質疑応答も合わせて総合的に評価する(100%)。				
回	授業内容	準備学習			
1	オリエンテーション：獣工連携の将来性とVPPいきものQOLプロジェクトの概要の解説と履修者の修学目標設定を行う。(江藤)	医学と工学が融合した医工連携の実施例を調査し、その結果に基づいて自分の研究に沿って考察しておくこと。(60分程度)			
2	獣医関連課題研究：獣医療と関連分野における現在と将来の課題について議論する。(水野)	自分の興味のある獣医学分野における課題について考えておくこと。(60分程度)			
3	センサーデバイス研究：獣医保健看護分野が関連する獣医療工学/獣医療福祉工学において有用な生体センサーとなり得るデバイスの概要について議論する。(赤木・江藤)	医療工学/医療福祉工学において使われているデバイスについて調査しておくこと。(60分程度)			
4	プログラミング研究：デバイス設計に必要なプログラミングについて議論する。センサーから送信される信号の解析アルゴリズムの基本について議論する。(赤木、江藤)	プログラミングの基本について予習すること。(60分程度)			
5	関連法律研究：獣医保健看護学が関連する獣医療工学/獣医療福祉工学において必要となり得る法律について議論する。(江藤)	獣医療分野における法的な問題事例について調査しておくこと。(60分程度)			
6	マーケティング研究：獣医保健看護学が関連する医療・獣医療関連商品開発の可能性をマーケティングの視点から考察する。(江藤)	指定される基本的なマーケティング概念に関する資料を読むこと。(60分程度)			
7	ブレインストーミング：各自、獣医保健看護学が関連する5つのデバイス案を発表する。発表内容について質疑したのちに一つのテーマを決定する。(江藤、水野、赤木)	獣医療工学/獣医療福祉工学をベースとしたデバイス案を5つ用意すること。(60分程度)			

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (15 ページ)

新	旧
選択科目の「いきもの QOL ラボ特別演習」を履修することで、 <u>獣医看護学が貢献できる課題に対する科学的な興味と協調的に解決する取り組む意欲を涵養</u> する。これはディプロマ・ポリシーの C (関心・意欲・態度) に最も深く関連する。	選択科目の「いきもの QOL ラボ特別演習」を履修することで、 <u>理工学研究科の教員からの指導を通じて協調的な問題解決戦略のコンセプトを理解</u> する。これはディプロマ・ポリシーの C (関心・意欲・態度) に最も強く関連する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (18 ページ)

新	旧
同じく通年開講の「いきもの QOL ラボ特別演習」では、 <u>獣医学研究科と理工学研究科の教員による協調的な指導のもと、グループワークとピア・レビューを中心に行うことで、動物関連デバイス開発の共同研究計画の立案に取り組み協調性を涵養</u> する。	同じく通年開講の「いきもの QOL ラボ特別演習」ではグループワークとピア・レビューを中心に行うことで、共同研究計画の立案に取り組み協調性を涵養する。

(是正事項) 獣医学研究科 獣医保健看護学専攻 (M)

2. 設置の趣旨等を記載した書類(本文)の「VII. 入学者選抜の概要」において、秋入学を実施することが説明されているが、秋入学の学生に対する研究指導計画やカリキュラムを踏まえた履修モデル等のスケジュールや計画が示されておらず、本課程に入学する全ての学生に対して、適切なカリキュラムが提供され、研究指導が実施されるのか判断することができない。このため、設置の趣旨等を記載した書類(資料)で示された「資料2-1 カリキュラムツリー」との整合性を踏まえつつ、「資料8-1 入学から修了までのスケジュール」について秋入学を踏まえた資料を示しながら、秋入学の学生に対する入学前から修了までの研究指導や履修指導について、適切な体制や計画となっていることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。【研究科共通】

(対応)

是正意見を受け、本研究科において養成する人材像を考慮し、入学者選抜の内容を一部改める。当初は本学既存の大学院研究科の入学者選抜に合わせ、獣医学研究科においても秋入学を設定した。是正意見をふまえ、適切なスケジュールで研究指導を実施できるよう、カリキュラム、研究指導計画、履修モデルなどを検討したが、少人数の入学定員である本研究科においては、目指す課題解決に必要な協調性を涵養するために年に複数回の学生受け入れは妥当ではないと判断した。

このため、秋入学の計画は取り下げ、春入学のみと改め、設置の趣旨を記載した書類「VII. 入学者選抜の概要」「3. 入学者の選抜方法」において秋入学に関する記載を削除する。また、表2、表4を表2、表3に修正し、表3、表5を削除する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (30、31 ページ)

新	旧
<p>3. 入学者の選抜方法 < 獣医保健看護学専攻 (修士課程) > 獣医保健看護学専攻修士課程の募集人員及び入学者選抜の方法は、(表2)～(表3)の区分とし、推薦入試、一般入試、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜を実施する計画である。一般入試、<u>社会人特別選抜は、受験希望者に時期の異なる複数の受験機会を提供するために前期と後期日程の2回実施する。</u></p>	<p>3. 入学者の選抜方法 < 獣医保健看護学専攻 (修士課程) > 獣医保健看護学専攻修士課程の募集人員及び入学者選抜の方法は、(表2)～(表5)の区分とし、推薦入試、一般入試、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜を<u>春入学あるいは秋入学として実施する計画である。春入学において一般入試は、受験希望者に時期の異なる複数の受験機会を提供するために前期と後期日程の2回実施する。</u></p>

<p>(表 2) 修士課程募集人員 (略)</p> <p style="text-align: center;">削除</p>	<p>(表 2) 修士課程募集人員 <u>(春入学)</u> (略)</p> <p><u>(表 3) 修士課程募集人員 (秋入学)</u></p>
<p>(表 3) 修士課程の入学者選抜の方式と選考方法 (略)</p> <p style="text-align: center;">削除</p>	<p>(表 4) 修士課程の入学者選抜の方式と選考方法 <u>(春入学)</u> (略)</p> <p><u>(表 5) 修士課程の入学者選抜の方式と選考方法 (秋入学)</u></p>

(改善事項) 獣医学研究科 獣医保健看護学専攻 (M)

3. 設置の趣旨等を記載した書類(資料)の資料8-1「獣医学研究科修士課程 入学から修了までのスケジュール」において示された、修了年次以外の秋学期に作成・審査することとなっている「大学院生研究活動報告書」について、設置の趣旨等を記載した書類(本文)に関連する説明が見受けられないことから、本報告書が本課程の研究指導においてどのように位置付けられ、学生の研究活動や評価に関わるものであるのか判断することができない。このため、「大学院生研究活動報告書」について、学生の研究活動の中でどのように位置付けられ、評価等にどのように活用されるものであるのか具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。【研究科共通】

(対応)

改善事項をふまえ、設置の趣旨等を記載した書類「V2. 履修指導」「3. 研究指導」及び資料7、資料8-1の内容の一部を改める。資料8-1「大学院研究活動報告書」を「大学院生研究活動(実績調査)」に改め、これを「学生の研究活動の進捗状況と研究成果を報告するための書類であり、学生が自ら、定期的に行う研究指導教員(主)と(副)とのディスカッションを基にして作成する報告書」として定義する。その活用方法上述した研究の進捗と成果の報告のほか、研究科委員会内の教育改善ワーキンググループが「大学院生研究活動(実績調査)」を精査し、研究進捗管理と評価の公正性の管理を行う。また必要に応じて学生と指導教員(主)と(副)のヒアリングなどを行うことで指導教員と学生のコミュニケーションを促進すると共に、研究指導体制改善に向けたフィードバックを行う。

上記を明確にするために、資料7、資料8-1及び「設置の趣旨等を記載した書類」「V. 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件」において「3. 研究指導」の一部を修正するとともに、大学院生研究活動(実績調査)の活用について記載した部分は「4. 教育・研究指導の有効性の検証」として新たに項目を立てる。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (19 ページ)

新	旧
移動 (V. 4)	<u>研究科におけるカリキュラム管理運営の独自性は研究科教育点検システム【資料7】で確保する。本研究科の教育点検システム【資料7】では、教育・研究指導が有効に機能していることを点検するために、学生の授業アンケートの集計データを研究科教育改善ワーキンググループが指導教員(主)・(副)と連携をとりながら分析し、結果を研究科</u>

	<p>委員会に報告するとともに必要な提言を行うことで情報共有する。並行して、指導教員を介して研究指導計画書と研究活動実績調査票より学生の修学・研究の進行状況を聞き取り、教育・研究指導が有効に機能しているかを点検する。必要に応じて点検結果を研究科教育改善ワーキンググループと指導教員を介してフィードバックすることで教育・研究指導の質の向上を図る。</p>
--	--

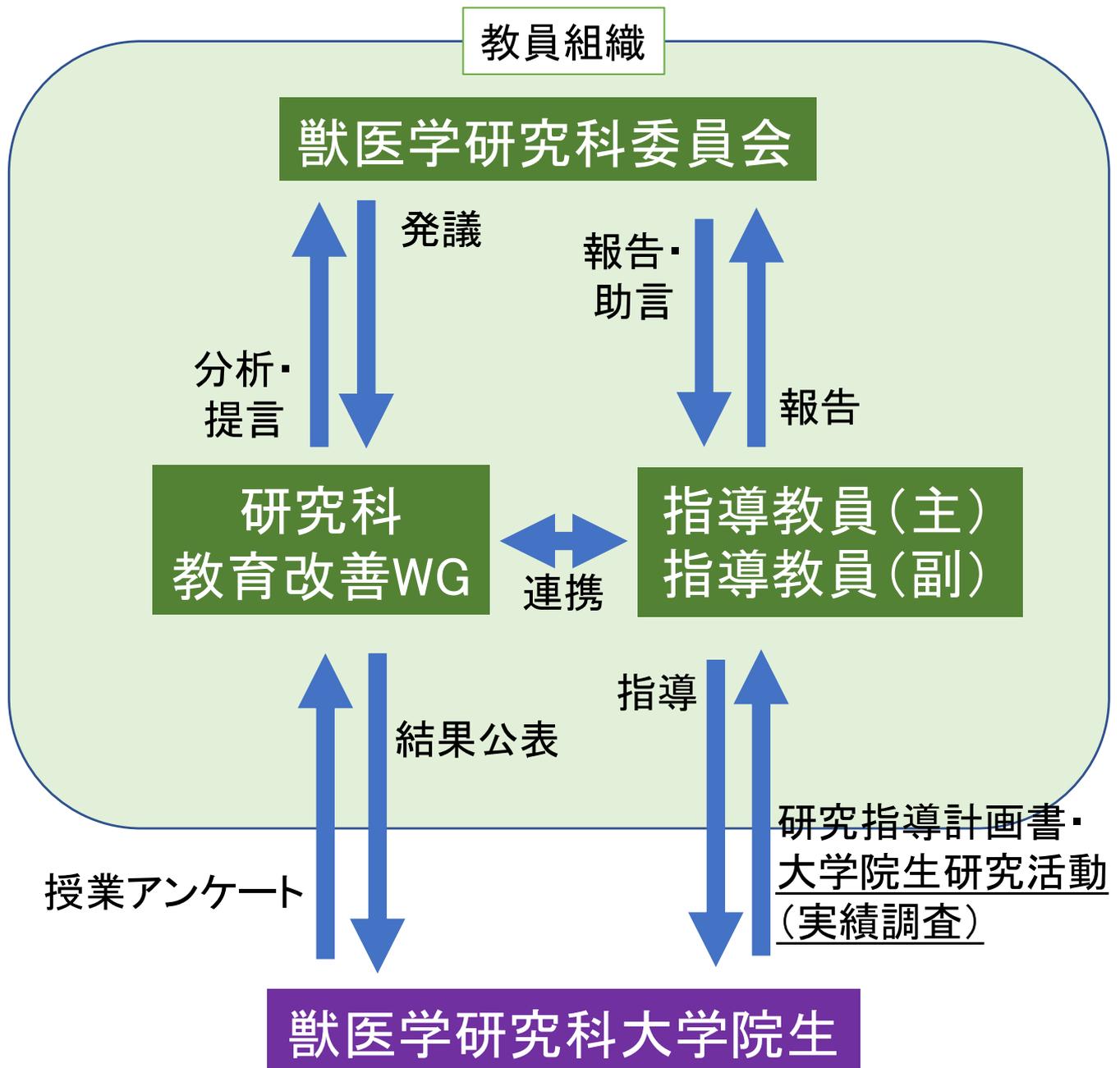
(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (20、21 ページ)

新	旧
<p>3. 研究指導 (略) < 獣医保健看護学専攻 (修士課程) > 修士論文の作成に関連する研究活動は「特別研究」として行われる。本研究科修士課程の入学から修了までの指導スケジュールを【資料 8-1】に示す。各学期のオリエンテーションでは、講義時間割の作成、及びディプロマ・ポリシーと学位論文審査基準、修学に必要な事項と日程を学生に確認させる。1 年次の学生には、研究倫理に関する基本的な知識を APRIN e ラーニングプログラムの受講により習得させる。1 年次 4 月に 1 名以上の指導教員 (副) を決定する。また、各年次の年度当初には、指導教員 (主) が学生と十分協議して、「研究指導計画書 (修士課程)」【資料 9-1】を作成し指導教員 (副) の助言を得たあとで書類を研究科委員会に提出する。 修士 2 年間の各学期に開講する「獣医保健看護学特別演習 I ~IV」を受講することで、専門分野や修士論文に関わる調査・解析能力やプレゼンテーション能力を段階的に修得させる。1 年次には、「獣医保健看護</p>	<p>3. 研究指導 (略) < 獣医保健看護学専攻 (修士課程) > 修士論文の作成に関連する研究活動は「特別研究」として行われる。本研究科修士課程の入学から修了までの指導スケジュールを【資料 8-1】に示す。各学期のオリエンテーションでは、講義時間割の作成、及びディプロマ・ポリシーと学位論文審査基準、修学に必要な事項と日程を学生に確認させる。1 年次の学生には、研究倫理に関する基本的な知識を APRIN e ラーニングプログラムの受講により習得させる。1 年次 4 月に 1 名以上の指導教員 (副) を決定する。また、各年次の年度当初には、指導教員 (主) が学生と十分協議して、「研究指導計画書 (修士課程)」【資料 9-1】を作成し指導教員 (副) の助言を得たあとで書類を研究科委員会に提出する。 修士 2 年間の各学期に開講する「獣医保健看護学特別演習 I ~IV」を受講することで、専門分野や修士論文に関わる調査・解析能力やプレゼンテーション能力を段階的に修得させる。1 年次には、「獣医保健看護</p>

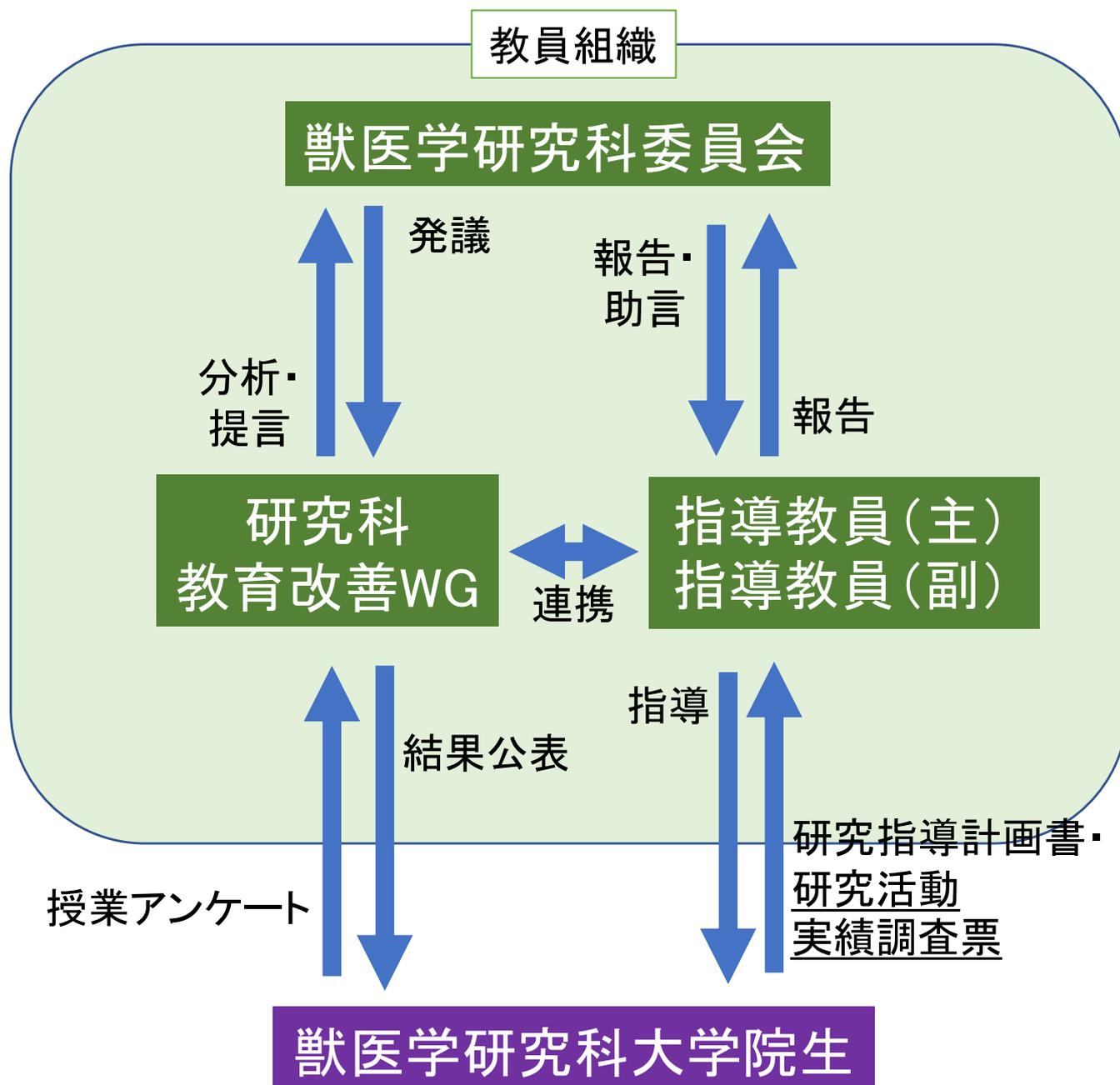
<p>護学特別演習Ⅱ」における修士論文の中間発表会（口頭発表）を実施するとともに、研究科内教員からの助言、指導を行うことで客観性が担保された高い水準の修士論文の完成を促す。また、指導教員（主）と（副）は「研究指導計画書（修士）」を参考に、進捗状況を鑑みた適切な助言を与える。進捗状況に関しては「大学院生研究活動（実績調査）」【資料10】を用いて、大学院生の研究活動の状況について研究科委員会で報告する。「<u>大学院生研究活動（実績調査）</u>」は「<u>学生の研究活動の進捗状況と研究成果を報告するための書類</u>」と位置づけ、学生が自ら、定期的に行う指導教員（主）と（副）とのディスカッションを基にして作成する報告書である。各年度末に研究科専攻長に提出する。研究科委員会内の教育改善ワーキンググループがこの報告書を審査し、研究進捗管理と評価の公正性の管理を行う。また必要に応じて学生と指導教員（主）と（副）のヒアリングなどを行うことで指導教員と学生のコミュニケーションを促進すると共に、研究指導体制改善に向けたフィードバックを行う。「<u>教育改善ワーキンググループ</u>」は研究科長、専攻長、及び研究科長が必要と認めた専任教員から構成される。2年次春学期の「獣医保健看護学特別演習Ⅲ」において2回目の中間発表会（口頭発表）を実施し、指導教員（主）と（副）からのフィードバックに基づき修士論文作成に向けた準備を行う。<u>指導教員（主）と（副）は「研究指導計画書（修士課程）」の内容を参考にし、「大学院生研究活動（実績調査）」、2回の中間発表会の内容に基づき修士論文執筆に関する指導を行うと共に、提出される論</u></p>	<p>学特別演習Ⅱ」における修士論文の中間発表会（口頭発表）を実施するとともに、研究科内教員からの助言、指導を行うことで客観性が担保された高い水準の修士論文の完成を促す。また、指導教員（主）と（副）は「研究指導計画書（修士）」を参考に、進捗状況を鑑みた適切な助言を与える。進捗状況に関しては「大学院生研究活動（実績調査）」【資料10】を実施し、大学院生の研究活動の状況について研究科委員会で報告する。2年次春学期の「獣医保健看護学特別演習Ⅲ」において2回目の中間発表会（口頭発表）を実施し、指導教員（主）と（副）からのフィードバックに基づき修士論文作成に向けた準備を行う。</p> <p>4. 課程修了の要件 （略）</p> <p>5. 学位論文審査体制、学位論文に係る評価の基準の公表方法 （略）</p> <p>6. 研究活動の単位認定 （略）</p> <p>7. 研究の倫理審査体制 （略）</p>
---	---

<p><u>文草稿の論理性と内容の正確性、文体の適切性についてのフィードバックを行う。</u></p> <p><u>4. 教育・研究指導の有効性の検証</u></p> <p><u>研究科におけるカリキュラム管理運営の独自性は研究科教育点検システム【資料7】で確保する。本研究科の教育点検システム【資料7】では、教育・研究指導が有効に機能していることを点検するために、学生の授業アンケートの集計データを研究科教育改善ワーキンググループが指導教員（主）と（副）と連携をとりながら分析し、結果を研究科委員会に報告するとともに必要な提言を行うことで情報共有する。並行して、指導教員を介して研究指導計画書と大学院生研究活動（実績調査）より学生の修学・研究の進行状況を聞き取り、教育・研究指導が有効に機能しているかを点検する。必要に応じて点検結果を研究科教育改善ワーキンググループと指導教員を介してフィードバックすることで教育・研究指導の質の向上を図る。</u></p> <p><u>5. 課程修了の要件</u> (略)</p> <p><u>6. 学位論文審査体制、学位論文に係る評価の基準の公表方法</u> (略)</p> <p><u>7. 研究活動の単位認定</u> (略)</p> <p><u>8. 研究の倫理審査体制</u> (略)</p>	
--	--

獣医学研究科 教育点検システム



獣医学研究科 教育点検システム



【新】

獣医学研究科 修士課程 入学から修了までのスケジュール

1年次		2年次
	春学期	
オリエンテーション (4月) DPと学位論文審査基準の確認 履修計画の作成		オリエンテーション (4月) DPと学位論文審査基準の確認 既修得単位の確認と履修計画の作成
獣医保健看護学特別演習Ⅰ 研究倫理教育：e-ラーニング 研究指導計画書の作成		獣医保健看護学特別演習Ⅲ 修士論文研究中間発表会
	秋学期	
オリエンテーション (9月)		オリエンテーション (9月)
獣医保健看護学特別演習Ⅱ 修士論文研究中間発表会		獣医保健看護学特別演習Ⅳ 修士論文研究要旨の作成
大学院生研究活動 (実績調査) 作成・審査		修士論文研究発表会・審査
		大学院生研究活動 (実績調査) 作成・審査
		学位授与式 (3月)

【旧】

獣医学研究科 修士課程 入学から修了までのスケジュール

1年次		2年次
	春学期	
オリエンテーション (4月) DPと学位論文審査基準の確認 履修計画の作成		オリエンテーション (4月) DPと学位論文審査基準の確認 既修得単位の確認と履修計画の作成
獣医保健看護学演習 I 研究倫理教育：e-ラーニング 研究指導計画書の作成		獣医保健看護学演習 III 修士論文研究進捗報告会
	秋学期	
オリエンテーション (9月)		オリエンテーション (9月)
獣医保健看護学演習 II 修士論文研究進捗報告会		獣医保健看護学演習 IV 修士論文研究要旨の作成
大学院生研究活動報告書作成・審査		修士論文研究発表会・審査 大学院生研究活動報告書作成・審査 学位授与式 (3月)

(改善事項) 獣医学研究科 獣医保健看護学専攻 (M)

4. シラバスについて、例えば授業科目「飼育動物学特論」の第2～4回目の授業内容が、「伴侶動物における諸問題」に(1)～(3)の連番を付したのみの記載となっているなど、各回の授業内容が不明瞭である授業科目が散見されることから、学生が当該授業科目を選択し履修するに当たって、当該授業科目で何を学び何を身に付けることができるのかが明確に分かるよう、各回の授業内容を網羅的に見直した上で具体的に示すこと。

(対応)

改善事項をふまえ、本授業科目の教育課程上の位置づけや目的に基づき、シラバスの各回の授業内容を網羅的に見直した結果、一部を改める。指摘のあった「飼育動物学特論」第2-4回目に加えて、この授業科目の第5-12回目、及び「動物感染症特論」、「動物福祉学特論」、「動物看護学特論」、「高齢動物科学特論」で身に付けることのできる専門性をより明確にするため、それぞれのシラバスにある授業内容において各回で何を学ぶのか詳細な記述を加えた。

(新旧対照表) シラバス (飼育動物学特論) 【新】

授業科目	飼育動物学特論			必修選択	選択
英文科目名	Domestic Animal Science				
対象研究科専攻/対象年次	獣医学研究科獣医保健看護学専攻/1年	単位数	2	開講期	後期
担当教員	豊後貴嗣		授業形態	講義	
講義目的	我が国の動物愛護管理法では、人の飼育下における動物の愛護と共生という目的の下、飼育動物を、4つの動物群に分けそれぞれの対処法を規定している。本講義では、それらの中から、家庭動物（伴侶動物）、産業動物、展示動物、実験動物を取り上げ、それぞれの動物群がかかえる諸課題について国際比較を交えながら、現状を講義する。教員からの課題提起に基づき、その課題解決法と今後のあり方について、より良い動物の愛護と共生のあり方や今後の展望について考察し説明できることを目標とする。				
達成目標	1) 伴侶動物における諸問題と解決方法について説明できる。2) 産業動物における諸問題と解決方法について説明できる。3) 実験動物における諸問題と解決方法について説明できる。（全てディプロマ・ポリシーのAに最も強く関連する）				
成績評価	担当教員が課すレポートの内容を客観的に評価し、先端研究に関する理解も含め、当該分野を十分に理解しているレベルに対する到達度に応じて成績評価をおこなう（100%）。				
回	授業内容	準備学習			
1	ガイダンス：本講義の背景や目的、とりわけ人間を取り巻く環境とそのなかで変化する動物との関係性について解説する。	伴侶動物、産業動物、実験動物など各カテゴリーにおける動物飼育の現在の問題点について取りまとめるとともに、各自の考えや疑問点を整理しておく。（60分程度）			
2	伴侶動物と人との関係における諸問題について、とりわけ動物福祉・動物愛護における「5つの自由」のうち、「 <u>飢え・渇きからの自由</u> ”と” <u>不快からの自由</u> ”について講義するとともに、各自がまとめてきた事例を題材として講義する。	伴侶動物の飼育環境について関心のある点や不明な点について整理しておくこと。（60分程度）			
3	伴侶動物と人との関係における諸問題について、とりわけ動物福祉・動物愛護における「5つの自由」のうち、「 <u>痛み・怪我・病気からの自由</u> ”と” <u>自然な行動の自由</u> ”について講義するとともに、各自がまとめてきた事例を題材として講義する。	伴侶動物の動物福祉について関心のある点や不明な点について整理しておくこと。（60分程度）			
4	伴侶動物と人との関係における諸問題について、とりわけ動物福祉・動物愛護における「5つの自由」のうち、「 <u>恐怖・苦痛からの自由</u> ”について講義するとともに、各自がまとめてきた事例を題材として講義する。	2, 3回目講義の内容を整理しておくこと。（60分程度）			
5	伴侶動物に関する3回分の講義を踏まえ、各自がまとめてきた事例を題材として講義する。	伴侶動物に関して各自が興味を持ったカテゴリーの動物飼育に関するトピックについて、改めて取りまとめ、問題解決に向けた自らの考えをまとめたプレゼンテーションファイルを準備する。（120分程度）			
6	産業動物と人との関係における諸問題について、とりわけ動物福祉・動物愛護における「5つの自由」のうち、「 <u>飢え・渇きからの自由</u> ”と” <u>不快からの自由</u> ”について講義するとともに、各自がまとめてきた事例を題材として講義する。	産業動物の動物福祉について関心のある点や不明な点について整理しておくこと。（60分程度）			
7	産業動物と人との関係における諸問題について、とりわけ動物福祉・動物愛護における「5つの自由」のうち、「 <u>痛み・怪我・病気からの自由</u> ”と” <u>自然な行動の自由</u> ”について講義するとともに、各自がまとめてきた事例を題材として講義する。	産業動物の動物福祉について関心のある点や不明な点について整理しておくこと。（60分程度）			
8	産業動物と人との関係における諸問題について、とりわけ動物福祉・動物愛護における「5つの自由」のうち、「 <u>恐怖・苦痛からの自由</u> ”について講義するとともに、各自がまとめてきた事例を題材として講義する。	6, 7回目講義の内容を整理しておくこと。（60分程度）			

9	産業動物に関する3回分の講義を踏まえ、各自がまとめた事例を題材に講義する。	産業動物に関して各自が興味を持ったカテゴリーの動物飼育に関するトピックについて、改めて取りまとめ、問題解決に向けた自らの考えをまとめたプレゼンテーションファイルを準備する。(120分程度)
10	実験動物と人との関係における諸問題について、とりわけ動物福祉・動物愛護における「5つの自由」のうち、「飢え・渇きからの自由」と「不快からの自由」について講義するとともに、各自がまとめた事例を題材として講義する。	実験動物の飼育環境について、各自が関心のある点や不明な点について整理しておくこと。(60分程度)
11	実験動物と人との関係における諸問題について、とりわけ動物福祉・動物愛護における「5つの自由」のうち、「痛み・怪我・病気からの自由」と「自然な行動の自由」について講義するとともに、各自がまとめた事例を題材として講義する。	実験動物の動物福祉について関心のある点や不明な点について整理しておくこと。(60分程度)
12	実験動物と人との関係における諸問題について、とりわけ動物福祉・動物愛護における「5つの自由」のうち、「恐怖・苦痛からの自由」について講義するとともに、各自がまとめた事例を題材として講義する。	10、11回目講義の内容を整理しておくこと。(60分程度)
13	実験動物に関する3回分の講義を踏まえ、各自がまとめた事例を題材に講義する。	実験動物に関して各自で興味を持ったカテゴリーの動物飼育に関するトピックについて、改めて取りまとめ、問題解決に向けた自らの考えをまとめたプレゼンテーションファイルを準備する。(120分程度)
14	展示動物、及び近年拡大する外来種生物の問題について、動物福祉・動物愛護の視点から概観するとともに、問題解決に向けた対策などについて講義する。	展示動物に関する課題と外来種生物が現在引き起こしている問題点について調べてみること。(60分程度)
15	講義の総括(人間を取り巻く環境とそのなかで変化する動物との関係性)を行う。	第14回までの講義内容をもとに、動物群がかかえる諸課題に対する自らの考えをまとめておくこと。(120分程度)
教科書	資料を配布する。	
参考書	指定しない。	
関連科目	動物福祉学特論、動物感染症学特論、獣医関連生命科学総合講義Ⅰ・Ⅱ	
キーワード	伴侶動物、産業動物、実験動物、動物飼育	
授業の運営方針	パワーポイントと資料を用いて、講義形式で進める。	
アクティブラーニングを促すための手法	ディスカッション/質問	
アクティブラーニング	講義後に課題を出し、自分なりの考えをまとめレポート提出。	
課題に対するフィードバック	講義中の質問へは講義中に、講義後の課題は後日に、フィードバックを行なう。	
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。	
その他(注意・備考)		
連絡先	豊後貴嗣 病院棟3階312号室 t-bungo@ous.ac.jp	

(新旧対照表) シラバス (飼育動物学特論) 【旧】

授業科目	飼育動物学特論			必修選択	選択
英文科目名	Domestic Animal Science				
対象研究科専攻/対象年次	獣医学研究科獣医保健看護学専攻/1年	単位数	2	開講期	後期
担当教員	豊後貴嗣		授業形態	講義	
講義目的	我が国の動物愛護管理法では、人の飼育下における動物の愛護と共生という目的の下、飼育動物を、4つの動物群に分けそれぞれの対処法を規定している。本講義では、それらの中から、家庭動物（伴侶動物）、産業動物、展示動物、実験動物を取り上げ、それぞれの動物群がかかえる諸課題について国際比較を交えながら、現状を講義する。教員からの課題提起に基づき、その課題解決法と今後のあり方について、より良い動物の愛護と共生のあり方や今後の展望について考察し説明できることを目標とする。				
達成目標	1) 伴侶動物における諸問題と解決方法について説明できる。2) 産業動物における諸問題と解決方法について説明できる。3) 実験動物における諸問題と解決方法について説明できる。（全てディプロマ・ポリシーのAに最も強く関連する）				
成績評価	担当教員が課すレポートの内容を客観的に評価し、先端研究に関する理解も含め、当該分野を十分に理解しているレベルに対する到達度に応じて成績評価をおこなう（100%）。				
回	授業内容	準備学習			
1	ガイダンス：本講義の背景や目的を解説する。	各カテゴリー（例えば伴侶動物など）における動物飼育の現在の問題点について、各自の考えや疑問点を整理しておく。（60分程度）			
2	伴侶動物における諸問題（1）	伴侶動物の飼育環境について関心のある点や不明な点について整理しておくこと。（60分程度）			
3	伴侶動物における諸問題（2）	伴侶動物の動物福祉について関心のある点や不明な点について整理しておくこと。（60分程度）			
4	伴侶動物における諸問題（3）	2, 3回目講義の内容を整理しておくこと。（60分程度）			
5	産業動物における諸問題（1）	産業動物の飼育環境について関心のある点や不明な点について整理しておくこと。（60分程度）			
6	産業動物における諸問題（2）	産業動物の動物福祉について関心のある点や不明な点について整理しておくこと。（60分程度）			
7	産業動物における諸問題（3）	2, 3回目講義の内容を整理しておくこと。（60分程度）			
8	実験動物における諸問題（1）	実験動物の飼育環境について関心のある点や不明な点について整理しておくこと。（60分程度）			

9	実験動物における諸問題 (2)	実験動物の動物福祉について関心のある点や不明な点について整理しておくこと。(60分程度)
10	実験動物における諸問題 (3)	2, 3回目講義の内容を整理しておくこと。(60分程度)
11	外来種生物の飼育における諸問題	外来種生物が現在引き起こしている問題点について調べてみるこ と。(60分程度)
12	プレゼンテーション&ディスカッション1	伴侶動物に関して各自で興味を持ったカテゴリーの動物飼育に関 するトピックについて、なぜその問題に注目したのか、どうすれ ば問題を解決できるのかなど、自らの考えをまとめたプレゼン テーションファイルを準備しておく。(120分程度)
13	プレゼンテーション&ディスカッション2	産業動物に関して各自で興味を持ったカテゴリーの動物飼育に関 するトピックについて、なぜその問題に注目したのか、どうすれ ば問題を解決できるのかなど、自らの考えをまとめたプレゼン テーションファイルを準備しておく。(120分程度)
14	プレゼンテーション&ディスカッション3	実験動物に関して各自で興味を持ったカテゴリーの動物飼育に関 するトピックについて、なぜその問題に注目したのか、どうすれ ば問題を解決できるのかなど、自らの考えをまとめたプレゼン テーションファイルを準備しておく。(120分程度)
15	講義の総括と、フリーディスカッション	第14回までの講義内容をもとに、動物群がかかえる諸課題に対す る自らの考えをまとめておくこと。(120分程度)
教科書	資料を配布する。	
参考書	指定しない。	
関連科目	動物福祉学特論、動物感染症学特論、獣医関連生命科学総合講義Ⅰ・Ⅱ	
キーワード	伴侶動物、産業動物、実験動物、動物飼育	
授業の運営方針	パワーポイントと資料を用いて、講義形式で進める。	
アクティブラーニングを 促すための手法	ディスカッション/質問	
アクティブラーニング	講義後に課題を出し、自分なりの考えをまとめレポート提出。	
課題に対するフィード バック	講義中の質問へは講義中に、講義後の課題は後日に、フィードバックを行なう。	
合理的配慮が必要な学生 への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していま すので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。	
その他 (注意・備考)		
連絡先	豊後貴嗣 病院棟3階312号室 t-bungo@ous.ac.jp	

(新旧対照表) シラバス (動物感染症特論) 【新】

授業科目	動物感染症特論			必修選択	選択
英文科目名	Veterinary Infectious Disease				
対象研究科専攻/対象年次	獣医学研究科獣医保健看護学専攻/1年	単位数	2	開講期	前期
担当教員	久枝啓一			授業形態	講義
講義目的	産業動物の感染症は、家畜の生産性を著しく低下させることにより、畜産業において経済的な損害を多く与えている。また、愛玩動物の感染症は、動物に苦痛を与えるとともに、飼い主の心理的な生活の質の低下をもたらしている。さらに、野生動物の感染症においては、新型コロナウイルスなどのように野生動物から人類へと感染が拡散し、人々の生活や経済の低下に大きな影響を与えている。本講義では、動物感染症に関する最先端の研究を研究背景、経緯、研究戦略、及び問題点について講義し、動物感染症の研究について理解し、研究の考え方や採材方法、検査方法の選択、結果の解析の仕方や解釈の仕方を習得すること、及びそれらを説明できるようになることを目的とする。				
達成目標	1) 実験動物に関する動物感染症に関する研究の背景、経緯、研究戦略、及び問題点について説明できる。2) 愛玩動物に関する動物感染症に関する研究の背景、経緯、研究戦略、及び問題点について説明できる。3) 産業動物に関する動物感染症に関する研究の背景、経緯、研究戦略、及び問題点について説明できる。(全てディプロマ・ポリシーのAに最も強く関連する)				
成績評価	プレゼンテーションの結果を評価する (100%)。				
回	授業内容	準備学習			
1	ガイドランスと感染症に関する基礎的知見を講義する。動物の感染症は、病原体の感染によって発病するが、その発症には多くの要因が関係してくる。それらの要因としては、感染する病原体の病原性や感染を受ける宿主個体の免疫力、および感染を成立させるための環境がある。これらの事がらを網羅的に講義し、感染症の研究について紹介する。	基本的な病原体の違いによる感染症や過去の動物における感染症の流行の事例について調べること。(30分程度)			
2	実験動物及びその施設における感染症について講義する(1)。実験動物の施設内におけるマウスやラットにおける肺炎の原因となるセンダイウイルスや致死率の高いマウス肝炎ウイルスについて講義する。	実験動物の施設内における動物から動物への感染症について調べること。(30分程度)			
3	実験動物及びその施設における感染症について講義する(2)。実験動物の施設内における動物から人への感染症について講義を行う。サルモネラ症や皮膚糸状菌症などを事例に出して講義を行う。	実験動物の施設内における動物から人への感染症について調べること。(30分程度)			
4	実験動物における感染症対策について講義する(1)。施設内での動物から動物への感染症に対する対策について講義する。衛生管理や飼養管理について講義を行う。	実験動物の施設内の感染症対策について調べること。(30分程度)			
5	実験動物における感染症対策について講義する(2)。実験動物から人への感染を防ぐため、動物の取り扱いや管理について講義を行い、各病原体を含めた特性と感染予防対策を学ぶ。	実験動物から人へ感染させないための予防対策について調べること。(30分程度)			
6	愛玩動物における感染症について講義する(1)。猫伝染性腹膜炎(FIP)や犬のフィラリア症など、市中に蔓延しやすい感染症の講義を行う。また、これらの疾患に対し感染様式の特徴や病原体の特性を学ぶ。	愛玩動物における動物から動物への感染症について調べること。(30分程度)			
7	愛玩動物における感染症について講義する(2)。重症熱性血小板減少症候群(SFTS)や狂犬病は、動物から人に感染し重篤な症状を示し、死に至らしめることもある疾患である。これらの感染症の特徴と感染様式を講義し、感染症に対する論文を紹介する。	愛玩動物における動物から人への感染症について調べること。(30分程度)			

8	愛玩動物の感染症対策について講義する(1)。愛玩動物の動物間で市中に蔓延している感染症について講義を行い、それらの感染症の予防対策について、過去の論文で研究された方法を紹介する。	愛玩動物における動物から動物への感染症対策について調べること。(30分程度)
9	愛玩動物の感染症対策について講義する(2)。愛玩動物の動物と人との間で市中で問題となっている感染症について講義を行い、それらの感染症の予防対策について、過去の論文で研究された方法を紹介する。	愛玩動物における動物から人への感染症対策について調べること。(30分程度)
10	産業動物及びその施設における感染症について講義する(1)。産業動物における施設管理内の感染症について講義を行う。施設内における家畜の感染症の流行性と施設管理をマイコプラズマ性肺炎やコロナウイルスによる腸炎を具体例として講義する。	家畜で季節的に施設内で蔓延する感染症について調べること。(30分程度)
11	産業動物及びその施設における感染症について講義する(2)。施設内における動物から人への感染症について講義する。クリプトスポリジウムやトキソプラズマなどを事例に出して説明を行い、過去の論文を紹介する。	産業動物における施設内での動物から人に伝播する感染症について調べること。(30分程度)
12	産業動物における感染症対策について講義する(1)。2010年に宮崎県で発生した口蹄疫の事例を説明し、感染症の伝播経路や病状に基づいた施設や飼養管理の対策について講義を行い、社会的な影響を含めて感染症を理解させる。	2010年に宮崎県で発生した口蹄疫の感染症対策について調べること。(30分程度)
13	産業動物における感染症対策について講義する(2)。養鶏農家で発症している鳥インフルエンザの状況を説明し、その野鳥や衛生動物に対する対策について講義する。また、近年、広がっている豚熱に対して、野生イノシシの対策について講義し、過去の論文を紹介する。	鳥インフルエンザや豚熱の感染症対策について調べること。(30分程度)
14	感染症の伝播に関するトピックスの一般的な講義を行う。その後、各自がまとめた事例に基づき講義する。	各自で興味を持った感染症に関するトピックについて、なぜその問題に注目したのか、どうすれば問題を解決できるのかなど、自らの考えをまとめたプレゼンテーションファイルを準備しておく。(120分程度)
15	感染症の防疫に関するトピックスの一般的な講義を行う。その後、各自がまとめた事例に基づき講義する。	各自で興味を持った感染症に関するトピックについて、なぜその問題に注目したのか、どうすれば問題を解決できるのかなど、自らの考えをまとめたプレゼンテーションファイルを準備しておく。(120分程度)
教科書	資料を配布する。	
参考書	指定しない。	
関連科目	動物看護学特論、飼育動物学特論、獣医関連生命科学総合講義Ⅰ・Ⅱ	
キーワード	人獣共通感染症	
授業の運営方針	パワーポイントと資料を用いて、講義形式で進める。	
アクティブラーニングを促すための手法	ディスカッション/質問	
アクティブラーニング	講義後に課題を出し、自分なりの考えをまとめレポート提出。	
課題に対するフィードバック	講義中の質問へは講義中に、講義後の課題は後日に、フィードバックを行なう。	
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。	
その他(注意・備考)		
連絡先	久枝啓一 病院棟3階318号室 k-hisaeda@ous.ac.jp	

(新旧対照表) シラバス (動物感染症特論) 【旧】

授業科目	動物感染症特論			必修選択	選択
英文科目名	Veterinary Infectious Disease				
対象研究科専攻/対象年次	獣医学研究科獣医保健看護学専攻/1年	単位数	2	開講期	前期
担当教員	久枝啓一		授業形態	講義	
講義目的	産業動物の感染症は、家畜の生産性を著しく低下させることにより、畜産業において経済的な損害を多く与えている。また、愛玩動物の感染症は、動物に苦痛を与えると同時に、飼い主の心理的な生活の質の低下をもたらしている。さらに、野生動物の感染症においては、新型コロナウイルスなどのように野生動物から人類へと感染が拡散し、人々の生活や経済の低下に大きな影響を与えている。本講義では、動物感染症に関する最先端の研究を研究背景、経緯、研究戦略、及び問題点について講義し、動物感染症の研究について理解し、研究の考え方や採材方法、検査方法の選択、結果の解析の仕方や解釈の仕方を習得すること、及びそれらを説明できるようになることを目的とする。				
達成目標	1) 実験動物に関する動物感染症に関する研究の背景、経緯、研究戦略、及び問題点について説明できる。2) 愛玩動物に関する動物感染症に関する研究の背景、経緯、研究戦略、及び問題点について説明できる。3) 産業動物に関する動物感染症に関する研究の背景、経緯、研究戦略、及び問題点について説明できる。(全てディプロマ・ポリシーのAに最も強く関連する)				
成績評価	プレゼンテーションの結果を評価する (100%)。				
回	授業内容	準備学習			
1	ガイドランスと感染症に関する基礎的知見を講義する。	基本的な感染症について調べてみること。(30分程度)			
2	実験動物及びその施設における感染症について講義する(1)。	実験動物における感染症について調べてみること。(30分程度)			
3	実験動物及びその施設における感染症について講義する(2)。	実験動物における感染症について調べてみること。(30分程度)			
4	実験動物における感染症対策について講義する(1)。	実験動物の感染症対策について調べてみること。(30分程度)			
5	実験動物における感染症対策について講義する(2)。	実験動物の感染症対策について調べてみること。(30分程度)			
6	愛玩動物における感染症について講義する(1)。	愛玩動物における感染症について調べてみること。(30分程度)			
7	愛玩動物における感染症について講義する(2)。	愛玩動物における感染症について調べてみること。(30分程度)			

8	愛玩動物の感染症対策について講義する（１）。	愛玩動物の感染症対策について調べてみること。（30分程度）
9	愛玩動物の感染症対策について講義する（２）。	愛玩動物の感染症対策について調べてみること。（30分程度）
10	産業動物及びその施設における感染症について講義する（１）。	産業動物における感染症について調べてみること。（30分程度）
11	産業動物及びその施設における感染症について講義する（２）。	産業動物における感染症について調べてみること。（30分程度）
12	産業動物における感染症対策について講義する（１）。	産業動物の感染症対策について調べてみること。（30分程度）
13	産業動物における感染症対策について講義する（２）。	産業動物の感染症対策について調べてみること。（30分程度）
14	<u>プレゼンテーション&ディスカッション1</u>	各自で興味を持った感染症に関するトピックについて、なぜその問題に注目したのか、どうすれば問題を解決できるのかなど、自らの考えをまとめたプレゼンテーションファイルを準備しておく。（120分程度）
15	<u>プレゼンテーション&ディスカッション2</u>	各自で興味を持った感染症に関するトピックについて、なぜその問題に注目したのか、どうすれば問題を解決できるのかなど、自らの考えをまとめたプレゼンテーションファイルを準備しておく。（120分程度）
教科書	資料を配布する。	
参考書	指定しない。	
関連科目	動物看護学特論、飼育動物学特論、獣医関連生命科学総合講義Ⅰ・Ⅱ	
キーワード	人獣共通感染症	
授業の運営方針	パワーポイントと資料を用いて、講義形式で進める。	
アクティブラーニングを促すための手法	ディスカッション／質問	
アクティブラーニング	講義後に課題を出し、自分なりの考えをまとめレポート提出。	
課題に対するフィードバック	講義中の質問へは講義中に、講義後の課題は後日に、フィードバックを行なう。	
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。	
その他（注意・備考）		
連絡先	久枝啓一 病院棟3階318号室 k-hisaeda@ous.ac.jp	

(新旧対照表) シラバス (動物福祉学特論) 【新】

授業科目	動物福祉学特論			必修選択	選択
英文科目名	Advanced Animal Welfare				
対象研究科専攻/対象年次	獣医学研究科獣医保健看護学専攻/1年	単位数	2	開講期	後期
担当教員	古本佳代		授業形態	講義	
講義目的	人間と密接に関わる動物の健康管理や疾患に対する効率的かつ適切な対応方法を研究・開発するためには、動物福祉の知識や考察力、さらには動物福祉について科学的な研究と評価から現実問題を改善するための実践的戦略を見出すことが必要である。本講義では、人間と動物がよりよい関係を構築するための方策・あり方・特色を、疾患の病態解明、予防医学、生理指標、行動、栄養学的・検査学的手法の開発など、様々な方面から考察し、説明できることを目標とする。				
達成目標	人間と動物がよりよい関係を構築するための方策・あり方・特色を、疾患の病態解明、予防医学、生理指標、行動、栄養学的・検査学的手法の開発など、様々な方面から考察し、説明できる。(全てディプロマ・ポリシーのAに最も強く関連する)				
成績評価	講義への取り組み(50%)、課題への取り組み(50%)で評価を行う。				
回	授業内容	準備学習			
1	ガイダンス 講義の背景や目的について、とりわけ人間社会における動物の取り扱いに関する考え方(動物観)、それらに影響する要因、動物福祉の概念について講義を行う。	産業動物、伴侶動物、実験動物、展示動物における動物福祉の問題点について調べておくこと(60分程度)			
2	動物生産における動物福祉(1) 動物福祉原則「5つの自由」、環境基準をふまえながら、飼育管理と動物福祉上の課題について講義を行う。	動物生産の飼育管理における動物福祉の問題点について調べること(60分程度)			
3	動物生産における動物福祉(2) 系統や品種の維持、生産における繁殖、遺伝的特性や疾患における動物福祉の現状と課題について講義を行う。	動物生産の繁殖における動物福祉の問題点について調べること(60分程度)			
4	動物生産における動物福祉の最新トピックについて紹介し、動物福祉低下におよぼす要因、問題解決策について講義を行う。	動物生産における動物福祉について関心のある点や不明な点について整理しておくこと(60分程度)			
5	動物のQOL(1) 健康、ヘルスプロモーション、保健、QOLの定義、健康と動物福祉の関連性、人と非言語コミュニケーションの関係にある動物のQOLの理解と評価について講義を行う。	健康の概念について調べ、歴史的変遷について整理しておくこと(60分程度)			
6	動物のQOL(2) 予防医学的観点から健康保持やQOL向上に対する改善点について、主に愛玩動物を対象に講義を行う。	愛玩動物の飼養におけるQOLの考え方について調べること(60分程度)			
7	愛玩動物のQOLについて最新トピックについて紹介し、QOL低下におよぼす要因、問題解決策について講義を行う。	動物のQOLについて関心のある点や不明な点について整理しておくこと(60分程度)			
8	加齢と動物福祉(1) 愛玩動物における高齢化、健康寿命、高齢化に伴って生じる動物福祉上の問題点について講義を行う。さらに、飼い主の高齢化に伴って生じる愛玩動物の動物福祉上の問題点についても講義を行う。	愛玩動物とその飼い主の高齢化について調べること(60分程度)			

9	加齢と動物福祉（2） 主に愛玩動物を対象に、加齢に伴う身体機能の変化や老年性疾患を取り上げ、高齢動物の看護ケアについて講義を行う。	高齢動物の看護ケアについて調べる（60分程度）
10	加齢と動物福祉（3） 病態解明のための老化モデル動物の有用性、長期飼育に伴う動物福祉上の問題点、動物福祉に配慮した飼育管理法について講義を行う。	老化モデル動物について調べる（60分程度）
11	動物福祉における生理学的・行動学的指標（1） 動物福祉の状態を評価する必要性、評価のための生理学的指標、行動学的指標について講義を行う。またそれらの指標の科学的妥当性について講義を行う。	動物福祉の評価に用いる生理学的・行動学的指標について調べる（60分程度）
12	動物福祉における生理学的・行動学的指標（2） 実験用小型げっ歯類の周術期における痛みについて講義を行う。さらに疼痛管理、痛みの評価方法の現状と課題について講義を行う。	実験用小型げっ歯類に用いられる麻酔法、鎮痛薬について調べる（60分程度）
13	動物福祉における生理学的・行動学的指標（3） 動物福祉向上を目指した環境エンリッチメント・プログラムの導入について講義を行う。さらに導入に伴う生理学的指標、行動学的指標の変化と、問題点について講義を行う。	産業動物、伴侶動物、実験動物、展示動物における環境エンリッチメント・プログラムについて調べる（60分程度）
14	環境エンリッチメント・プログラム導入の最新トピックについて紹介し、環境エンリッチメントプログラム導入が動物福祉におよぼす影響について講義を行う。	環境エンリッチメント・プログラムについて関心のある点や不明な点について整理しておくこと（60分程度）
15	講義の総括 14回目までの講義内容をもとに、各自が興味を持った動物福祉に関するテーマを決め、まとめた事例を題材に講義を総括する。	第14回までの講義内容をもとにテーマを決め、プレゼンテーションファイルを準備しておくこと。（120分程度）
教科書	資料を配布する	
参考書	指定しない	
関連科目	動物看護学特論、獣医関連生命科学総合講義Ⅰ・Ⅱ、いきものQOL特別演習	
キーワード	人と動物の関係、動物看護、QOL、高齢動物、適正飼養、愛玩動物、産業動物、実験動物、展示動物	
授業の運営方針	パワーポイントと資料を用いて、講義形式で進める。	
アクティブラーニングを促すための手法	ディスカッション/質問	
アクティブラーニング	プレゼンテーション/ディスカッション	
課題に対するフィードバック	講義中の質問へは講義中に、講義後の課題は後日に、フィードバックを行なう。	
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。	
その他（注意・備考）		
連絡先	古本佳代 獣医学教育棟3階314号室 k-furumoto@ous.ac.jp	

(新旧対照表) シラバス (動物福祉学特論) 【旧】

授業科目	動物福祉学特論			必修選択	選択
英文科目名	Advanced Animal Welfare				
対象研究科専攻/対象年次	獣医学研究科獣医保健看護学専攻/1年	単位数	2	開講期	後期
担当教員	古本佳代		授業形態	講義	
講義目的	人間と密接に関わる動物の健康管理や疾患に対する効率的かつ適切な対応方法を研究・開発するためには、動物福祉の知識や考察力、さらには動物福祉について科学的な研究と評価から現実問題を改善するための実践的戦略を見出すことが必要である。本講義では、人間と動物がよりよい関係を構築するための方策・あり方・特色を、疾患の病態解明、予防医学、生理指標、行動、栄養学的・検査学的手法の開発など、様々な方面から考察し、説明できることを目標とする。				
達成目標	人間と動物がよりよい関係を構築するための方策・あり方・特色を、疾患の病態解明、予防医学、生理指標、行動、栄養学的・検査学的手法の開発など、様々な方面から考察し、説明できる。(全てディプロマ・ポリシーのAに最も強く関連する)				
成績評価	ディスカッション等の講義への取り組み(50%)、課題への取り組み(50%)で評価を行う。				
回	授業内容	準備学習			
1	ガイダンスとして講義の背景や目的などを解説する。	産業動物、伴侶動物、実験動物、展示動物における動物福祉の問題点について調べておくこと(60分程度)			
2	動物生産における動物福祉について講義する(1)。	動物生産における動物福祉について整理しておくこと(60分程度)			
3	動物生産における動物福祉について講義する(2)。	3回目の講義内容について整理しておくこと(60分程度)			
4	動物生産における動物福祉の最新トピックについて紹介し、ディスカッションする。	4回目の講義内容について整理しておくこと(60分程度)			
5	動物のQOLについて講義する(1)。	動物のQOLについて整理しておくこと(60分程度)			
6	動物のQOLについて講義する(2)。	5回目の講義内容について整理しておくこと(60分程度)			
7	動物のQOLについて最新トピックについて紹介し、ディスカッションする。	6回目の講義内容について整理しておくこと(60分程度)			
8	加齢と動物福祉について講義する(1)。	高齢動物の福祉について整理しておくこと(60分程度)			

9	加齢と動物福祉について講義する(2)。	8回目の講義内容について整理しておくこと(60分程度)
10	加齢と動物福祉の最新トピックについて紹介し、ディスカッションする。	9回目の講義内容について整理しておくこと(60分程度)
11	動物福祉における生理学的・行動学的指標について講義する(1)。	動物福祉における生理学的・行動学的指標について整理しておくこと(60分程度)
12	動物福祉における生理学的・行動学的指標について講義する(2)。	11回目の講義内容について整理しておくこと(60分程度)
13	動物福祉における生理学的・行動学的指標について講義する(3)。	12回目の講義内容について整理しておくこと(60分程度)
14	動物福祉における生理学的・行動学的指標の最新トピックについて紹介し、ディスカッションする。	13回目の講義内容について整理しておくこと(60分程度)
15	講義の総括とプレゼンテーションによる総合討論	第14回までの講義内容をもとに、動物福祉に対する自分の考えをまとめておくこと。(120分程度)
教科書	資料を配布する	
参考書	指定しない	
関連科目	動物看護学特論、獣医関連生命科学総合講義Ⅰ・Ⅱ、いきものQOL特別演習	
キーワード	人と動物の関係、動物看護、QOL、高齢動物、適正飼養、愛玩動物、産業動物、実験動物、展示動物	
授業の運営方針	パワーポイントと資料を用いて、講義形式で進める。	
アクティブラーニングを促すための手法	ディスカッション/質問	
アクティブラーニング	プレゼンテーション/ディスカッション	
課題に対するフィードバック	講義中の質問へは講義中に、講義後の課題は後日に、フィードバックを行なう。	
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。	
その他(注意・備考)		
連絡先	古本佳代 獣医学教育棟3階314号室 k-furumoto@ous.ac.jp	

(新旧対照表) シラバス (動物看護学特論) 【新】

授業科目	動物看護学特論			必修選択	選択
英文科目名	Veterinary Nursing Science				
対象研究科専攻/対象年次	獣医学研究科獣医保健看護学専攻/1年	単位数	2	開講期	後期
担当教員	佐伯香織 (科目責任者)、田川道人			授業形態	講義
講義目的	動物病院における獣医療現場において患者の疾病や未病の状態の変化に柔軟に対応できるための実践能力を身につけるために、最先端の動物看護学の知見を修得することを目標とし、本講義では、動物看護研究を進めていくうえで基盤となる最先端の動物看護学領域のトピックス、1) 人と動物を対象としたときの看護学の視点の特徴、2) 愛玩動物に特徴的な腫瘍性疾患・腎泌尿器疾患・皮膚疾患に関する看護のあり方、3) 高度治療に必須となる最先端の麻酔/疼痛管理の知見と問題点、に関する最新の知見について講義する。				
達成目標	1) 動物看護研究を進めていくうえで基盤となる動物看護学および獣医学の知識について説明できる。2) 動物看護学におけるや最新の知見について例を用いて説明できる。(全てディプロマ・ポリシーのAに最も強く関連する)				
成績評価	講義への取り組み (50%)、課題への取り組み (50%) で評価を行う。				
回	授業内容	準備学習			
1	ガイダンス 本講義の背景や目的、動物看護における研究の役割とあり方について講義する。	動物看護の役割とあり方について整理しておくこと (60分程度)			
2	動物看護研究の基礎知識と研究課程 (1) 看護学研究と動物看護学研究の歴史や現状について、最新の研究成果などを交えながら講義を行う。	ヒトと動物の看護学研究の歴史について調べる (60分程度)			
3	動物看護研究の基礎知識と研究課程 (2) 看護学研究と動物看護学研究の違いについて、研究課題の発見・選択、展開、評価方法を講義し、それぞれの研究を比較する。	ヒトと動物の看護学研究の違いについて調べる (60分程度)			
4	動物の健康を科学的・客観的に把握するための手法 (1) 動物の健康状態を知るための様々な指標について、目的や評価方法、課題などについて講義し、適切な看護を行うための方策について講義する。	動物の健康を科学的・客観的に把握するための手法について整理しておくこと (60分程度)			
5	動物の健康を科学的・客観的に把握するための手法 (2) 動物の疾患の同定や病態の評価を目的とした様々な検査手技と原理、結果の解釈について最新トピックを交え講義する。とくに血液や感染症検体の取り扱いや病態を評価したうえでの適切な看護の在り方について講義する。	動物の疾患の同定や病態の評価を目的とした様々な検査手技について調べておくこと (60分程度)			
6	愛玩動物に多い腫瘍性疾患 (1) 腫瘍性疾患の病態を理解し、その病態に必要な動物看護や具体的な取り組みについて最新トピックを交え講義する。特に、外科療法や放射線療法をはじめとする局所療法に対する動物看護を中心に解説し、適切な看護のあり方について講義する。	腫瘍性疾患に行われる治療法や看護について整理しておくこと (60分程度)			
7	愛玩動物に多い腫瘍性疾患 (2) 腫瘍性疾患の病態を理解し、その病態に必要な動物看護や具体的な取り組みについて最新トピックを交え講義する。特に、がん化学療法をはじめとする全身療法に対する動物看護を中心に解説し、適切な看護のあり方について講義する。	腫瘍性疾患に行われる治療法や看護について整理しておくこと (60分程度)			
8	愛玩動物に多い腎泌尿器疾患 (1) 腎泌尿器疾患の病態を理解し、その病態に必要な動物看護や具体的な取り組みについて最新トピックを交え講義する。特に、急性腎障害や慢性腎臓病をはじめとする内科疾患に対する動物看護を中心に解説し、適切な看護のあり方について講義する。	腎泌尿器疾患に行われる治療法や看護について整理しておくこと (60分程度)			

9	愛玩動物に多い腎泌尿器疾患（2） 腎泌尿器疾患の病態を理解し、その病態に必要な動物看護や具体的な取り組みについて最新トピックを交え講義する。特に、各種尿路変更術や尿路再建術をはじめとする外科手術に対する動物看護を中心に解説し、適切な看護のあり方について講義する。	腎泌尿器疾患に行われる治療法や看護について整理しておくこと（60分程度）
10	愛玩動物に多い皮膚疾患（1） 皮膚疾患の病態を理解し、その病態に必要な動物看護や具体的な取り組みについて最新トピックを交え講義する。特に、内服薬、サプリメント、フード等の内用療法に関する動物看護を中心に解説し、適切な看護のあり方について講義する。	皮膚疾患に行われる治療法や看護について整理しておくこと（60分程度）
11	愛玩動物に多い皮膚疾患（2） 皮膚疾患の病態を理解し、その病態に必要な動物看護や具体的な取り組みについて最新トピックを交え講義する。特に、外用薬、シャンプー、保湿剤等の外用療法に関する動物看護を中心に解説し、適切な看護のあり方について講義する。	皮膚疾患に行われる治療法や看護について整理しておくこと（60分程度）
12	愛玩動物を対象とした麻酔および疼痛管理（1） 愛玩動物を対象とした麻酔の目的とその手技について概説し、周麻酔期における動物看護と麻酔の関わりについて近年の動向を踏まえながら講義する。さらに、各論として第6-11回で学んだ様々な疾患をもつ動物に対する周麻酔期の看護について最新の研究報告を交え講義する。	愛玩動物を対象とした麻酔および鎮静について知識を整理しておくこと（60分程度）
13	愛玩動物を対象とした麻酔および疼痛管理（2） 愛玩動物における痛み、特に外科手術や疾患に伴って発生する痛みの生理学と治療・緩和方法について概説し、動物の痛みに対する動物看護的アプローチについて近年の動向を踏まえながら講義する。さらに、痛みの評価方法について、最新の研究報告を交え講義する。	愛玩動物を対象とした痛みとその治療について知識を整理しておくこと（60分程度）
14	愛玩動物における栄養管理（1） 疾患ならびにその病態による異なる栄養管理の目的について概説し、健康時および疾病時の栄養評価と栄養計画、食事計画の手法など最新トピックを交え講義する。	愛玩動物における栄養管理について整理しておくこと（60分程度）
15	愛玩動物における栄養管理（2） 疾患ならびにその病態により異なる栄養管理について、第6-13回で学んだ様々な疾患や状態の動物に対する適切な栄養管理方法と動物看護について最新トピックを交え講義する。	14回目の講義内容をもとに様々な病態をもつ愛玩動物の栄養管理について自らの考えを整理しておくこと（60分程度）
教科書	資料を配布する。	
参考書	指定しない。	
関連科目	高度動物看護学特別演習、高齢動物科学特論、獣医関連生命科学総合講義Ⅰ・Ⅱ、動物福祉学特論	
キーワード		
授業の運営方針	パワーポイントと資料を用いて、講義形式で進める。	
アクティブラーニングを促すための手法	ディスカッション／質問	
アクティブラーニング	講義後に課題を出し、自分なりの考えをまとめレポート提出。	
課題に対するフィードバック	講義中の質問へは講義中に、講義後の課題は後日に、フィードバックを行なう。	
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。	
その他（注意・備考）		
連絡先	佐伯香織 獣医学教育棟3階311号室 k-saeki@ous.ac.jp	

(新旧対照表) シラバス (動物看護学特論) 【旧】

授業科目	動物看護学特論			必修選択	選択
英文科目名	Veterinary Nursing Science				
対象研究科専攻/対象年次	獣医学研究科獣医保健看護学専攻/1年	単位数	2	開講期	後期
担当教員	佐伯香織(科目責任者)、田川道人			授業形態	講義
講義目的	動物病院における獣医療現場において患者の疾病や未病の状態の変化に柔軟に対応できるための実践能力を身につけるために、最先端の動物看護学の知見を修得することを目標とし、本講義では、動物看護研究を進めていくうえで基盤となる最先端の動物看護学領域のトピックス、1) 人と動物を対象としたときの看護学の視点の特徴、2) 愛玩動物に特徴的な腫瘍性疾患・腎泌尿器疾患・皮膚疾患に関する看護のあり方、3) 高度治療に必須となる最先端の麻酔/疼痛管理の知見と問題点、に関する最新の知見について講義する。				
達成目標	1) 動物看護研究を進めていくうえで基盤となる動物看護学および獣医学の知識について説明できる。2) 動物看護学におけるや最新の知見について例を用いて説明できる。(全てディプロマ・ポリシーのAに最も強く関連する)				
成績評価	ディスカッション等の講義への取り組み(50%)、課題への取り組み(50%)で評価を行う。				
回	授業内容	準備学習			
1	オリエンテーション 獣医関連科学における動物看護の役割とあり方について講義する。	動物看護の役割とあり方について整理しておくこと(60分程度)			
2	人の看護学研究と動物看護学研究の違いや課題、最新トピックについて講義する(1)。	人の看護学研究と動物看護学研究の違いについて整理しておくこと(60分程度)			
3	人の看護学研究と動物看護学研究の違いや課題、最新トピックについて講義する(2)。	2回目の講義内容について整理しておくこと(60分程度)			
4	動物の健康を科学的・客観的に把握するための手法について講義する(1)。	動物の健康を科学的・客観的に把握するための手法について整理しておくこと(60分程度)			
5	動物の健康を科学的・客観的に把握するための手法について講義する(2)。	4回目の講義内容について整理しておくこと(60分程度)			
6	愛玩動物に多い腫瘍性疾患の病態を理解し、その病態に必要な動物看護や具体的取り組みについて最新トピックを交え講義する(1)。	愛玩動物に多い腫瘍について整理しておくこと(60分程度)			
7	愛玩動物に多い腫瘍性疾患の病態を理解し、その病態に必要な動物看護や具体的取り組みについて最新トピックを交え講義する(2)。	6回目の講義内容について整理しておくこと(60分程度)			
8	愛玩動物に多い腎泌尿器疾患の病態を理解し、その病態に必要な動物看護や具体的取り組みについて最新トピックを交え講義する(1)。	愛玩動物に多い腎泌尿器疾患について整理しておくこと(60分程度)			

9	愛玩動物に多い腎泌尿器疾患の病態を理解し、その病態に必要な動物看護や具体的取り組みについて最新トピックを交え講義する(2)。	8回目の講義内容について整理しておくこと(60分程度)
10	愛玩動物に多い皮膚疾患の病態を理解し、その病態に必要な動物看護や具体的取り組みについて最新トピックを交え講義する(1)。	愛玩動物に多い皮膚疾患について整理しておくこと(60分程度)
11	愛玩動物に多い皮膚疾患の病態を理解し、その病態に必要な動物看護や具体的取り組みについて最新トピックを交え講義する(2)。	10回目の講義内容について整理しておくこと(60分程度)
12	愛玩動物における麻酔と疼痛管理について講義する(1)。	愛玩動物における麻酔と疼痛管理について整理しておくこと(60分程度)
13	愛玩動物における麻酔と疼痛管理について講義する(2)。	12回目の講義内容について整理しておくこと(60分程度)
14	愛玩動物における栄養管理について講義する(1)。	愛玩動物における栄養管理について整理しておくこと(60分程度)
15	愛玩動物における栄養管理について講義する(2)。	14回目の講義内容について整理しておくこと
教科書	資料を配布する。	
参考書	指定しない。	
関連科目	高度動物看護学特別演習、高齢動物科学特論、獣医関連生命科学総合講義Ⅰ・Ⅱ、動物福祉学特論	
キーワード		
授業の運営方針	パワーポイントと資料を用いて、講義形式で進める。	
アクティブラーニングを促すための手法	ディスカッション/質問	
アクティブラーニング	講義後に課題を出し、自分なりの考えをまとめレポート提出。	
課題に対するフィードバック	講義中の質問へは講義中に、講義後の課題は後日に、フィードバックを行なう。	
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。	
その他(注意・備考)		
連絡先	佐伯香織 獣医学教育棟3階311号室 k-saeki@ous.ac.jp	

(新旧対照表) シラバス (高齢動物科学特論) 【新】

授業科目	高齢動物科学特論			必修選択	選択
英文科目名	Gerontological Animal Science				
対象研究科専攻/対象年次	獣医学研究科獣医保健看護学専攻/1年	単位数	2	開講期	前期
担当教員	木村展之		授業形態	講義	
講義目的	近年の獣医療技術や栄養学の発展に伴い伴侶動物の寿命は飛躍的に延伸したが、その結果として伴侶動物の高齢化が進み、老年性疾患という新たな問題と向き合うこととなった。老年性疾患の多くは罹患動物のQOLを著しく低下させることから、治療法の開発のみならず高齢動物に適したケア技術の確立が喫緊の課題となっている。本講義では、老年性疾患の最大リスク因子である老化の生物学的メカニズムや、主に伴侶動物を対象とする各種老年性疾患の病態、および高齢動物を対象とする獣医療における現在の問題点などについて講義し、高齢動物に適した動物看護学の本質を理解して実践につなげられるようになることを目的とする。				
達成目標	1) 老化の機構について説明できる。2) 高齢動物の特徴について説明できる。3) フレイルについて説明できる。4) 高齢動物の現状の課題について例を用いて説明できる。5) 高齢動物に適した動物看護学の本質について説明できる。(全てディプロマ・ポリシーのAに最も強く関連する)				
成績評価	担当教員が課レポートの内容を客観的に評価し、先端研究に関する理解も含め、当該分野を十分に理解しているレベルに対する到達度に応じて成績評価をおこなう(100%)。				
回	授業内容	準備学習			
1	ガイダンス：本講義の背景や目的などを解説する。	伴侶動物や展示動物の高齢化について調べること。(30分程度)			
2	老化研究の歴史や現状について、最新の研究成果などを交えながら講義を行う。	老化研究をキーワードに、各自で最新のトピックスなどを調べること。(30分程度)			
3	主に伴侶動物を対象に、高齢動物の看護における現状や今後の課題などについて講義を行う。	伴侶動物の高齢化や、看護処置上の問題点などについて調べること。(30分程度)			
4	主に伴侶動物を対象に、高齢動物に対する動物福祉の現状や今後の課題などについて講義を行う。	主に伴侶動物を対象に、高齢動物の動物福祉向上に必要な考え方などについて各個人の意見をまとめておくこと。(30分程度)			
5	主に伴侶動物を対象に、フレイル・サルコペニアという概念と、実際の具体例について講義を行う。	フレイルやサルコペニアというキーワードについて調べること。(30分程度)			
6	イヌの認知症などに代表される高齢動物の老年性疾患について、現在の状況や課題について講義を行う。	伴侶動物の認知症や老年性疾患というキーワードについて調べること。(30分程度)			
7	ズービキティを活用した老年性疾患研究について講義を行い、高齢動物の看護・獣医療に必要な研究や考え方について学ぶ。	ズービキティというキーワードについて調べること。(30分程度)			
8	実際に現場で活躍している研究者や獣医療従事者の声を聴き、老化研究や高齢動物看護の現状について学ぶ。	老化という生物学的現象や高齢動物の獣医療・看護について、自身が興味を持ったことや解決したい今後の課題などについて調べること。			

9	実際に現場で活躍している研究者や獣医療従事者の声を聴き、 老化研究や高齢動物看護の現状について学ぶ。	老化という生物学的現象や高齢動物の獣医療・看護について、 自身が興味を持ったことや解決したい今後の課題などについて調べる こと。(30分程度)
10	実際に現場で活躍している研究者や獣医療従事者の声を聴き、 老化研究や高齢動物看護の現状について学ぶ。	老化という生物学的現象や高齢動物の獣医療・看護について、 自身が興味を持ったことや解決したい今後の課題などについて調べる こと。(30分程度)
11	実際に現場で活躍している研究者や獣医療従事者の声を聴き、 老化研究や高齢動物看護の現状について学ぶ。	老化という生物学的現象や高齢動物の獣医療・看護について、 自身が興味を持ったことや解決したい今後の課題などについて調べる こと。(30分程度)
12	1回目から11回目の授業内容を基に各自が興味を持ってまとめた 事例を題材に講義を行う。フレイル・サルコペニアに関する テーマを中心に取り上げる。	各自で興味を持った高齢動物に関するトピックについて、なぜそ の問題に注目したのか、どうすれば問題を解決できるのかなど、 自らの考えをまとめたプレゼンテーションファイルを準備しておく。 (120分程度)
13	1回目から11回目の授業内容を基に各自が興味を持ってまとめた 事例を題材に講義を行う。伴侶動物の老化とゾービキティ研究 に関するテーマを中心に取り上げる。	各自で興味を持った高齢動物に関するトピックについて、なぜそ の問題に注目したのか、どうすれば問題を解決できるのかなど、 自らの考えをまとめたプレゼンテーションファイルを準備しておく。 (120分程度)
14	1回目から11回目の授業内容を基に各自が興味を持ってまとめた 事例を題材に講義を行う。伴侶動物の老化に応じた飼育者に対 する問題に関するテーマを中心に取り上げる。	各自で興味を持った高齢動物に関するトピックについて、なぜそ の問題に注目したのか、どうすれば問題を解決できるのかなど、 自らの考えをまとめたプレゼンテーションファイルを準備しておく。 (120分程度)
15	講義の総括：1回目から14回目の授業において新たに発見した 課題について持ち寄り、それについて講義する。	第14回までの講義内容をもとに、高齢動物の看護に対する自らの 考えをまとめておくこと。(120分程度)
教科書	資料を配布する。	
参考書	指定しない。	
関連科目	獣医関連生命科学総合講義Ⅰ・Ⅱ、動物看護学特論、高度動物看護学特別演習	
キーワード	老化、老年性疾患、老年看護、介護	
授業の運営方針	パワーポイントと資料を用いて、講義形式で進める。	
アクティブラーニングを 促すための手法	ディスカッション／質問	
アクティブラーニング	講義後に課題を出し、自分なりの考えをまとめレポート提出。	
課題に対するフィード バック	講義中の質問へは講義中に、講義後の課題は後日に、フィードバックを行なう。	
合理的配慮が必要な学生 への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供して いますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。	
その他(注意・備考)		
連絡先	木村展之 病院棟3階315号室 nobu-kimura@ous.ac.jp	

(新旧対照表) シラバス (高齢動物科学特論) 【旧】

授業科目	高齢動物科学特論			必修選択	選択
英文科目名	Gerontological Animal Science				
対象研究科専攻/対象年次	獣医学研究科獣医保健看護学専攻/1年	単位数	2	開講期	前期
担当教員	木村展之		授業形態	講義	
講義目的	近年の獣医療技術や栄養学の発展に伴い伴侶動物の寿命は飛躍的に延伸したが、その結果として伴侶動物の高齢化が進み、老年性疾患という新たな問題と向き合うこととなった。老年性疾患の多くは罹患動物のQOLを著しく低下させることから、治療法の開発のみならず高齢動物に適したケア技術の確立が喫緊の課題となっている。本講義では、老年性疾患の最大リスク因子である老化の生物学的メカニズムや、主に伴侶動物を対象とする各種老年性疾患の病態、および高齢動物を対象とする獣医療における現在の問題点などについて講義し、高齢動物に適した動物看護学の本質を理解して実践につなげられるようになることを目的とする。				
達成目標	1) 老化の機構について説明できる。2) 高齢動物の特徴について説明できる。3) フレイルについて説明できる。4) 高齢動物の現状の課題について例を用いて説明できる。5) 高齢動物に適した動物看護学の本質について説明できる。(全てディプロマ・ポリシーのAに最も強く関連する)				
成績評価	担当教員が課レポートの内容を客観的に評価し、先端研究に関する理解も含め、当該分野を十分に理解しているレベルに対する到達度に応じて成績評価をおこなう(100%)。				
回	授業内容	準備学習			
1	ガイダンス：本講義の背景や目的などを解説する。	伴侶動物や展示動物の高齢化について調べること。(30分程度)			
2	老化研究の歴史や現状について、最新の研究成果などを交えながら講義を行う。	老化研究をキーワードに、各自で最新のトピックスなどを調べること。(30分程度)			
3	主に伴侶動物を対象に、高齢動物の看護における現状や今後の課題などについて講義を行う。	伴侶動物の高齢化や、看護処置上の問題点などについて調べること。(30分程度)			
4	主に伴侶動物を対象に、高齢動物に対する動物福祉の現状や今後の課題などについて講義を行う。	主に伴侶動物を対象に、高齢動物の動物福祉向上に必要な考え方などについて各個人の意見をまとめておくこと。(30分程度)			
5	主に伴侶動物を対象に、フレイル・サルコペニアという概念と、実際の具体例について講義を行う。	フレイルやサルコペニアというキーワードについて調べること。(30分程度)			
6	イヌの認知症などに代表される高齢動物の老年性疾患について、現在の状況や課題について講義を行う。	伴侶動物の認知症や老年性疾患というキーワードについて調べること。(30分程度)			
7	ズービキティを活用した老年性疾患研究について講義を行い、高齢動物の看護・獣医療に必要な研究や考え方について自由にディスカッションを行う。	ズービキティというキーワードについて調べること。(30分程度)			
8	老化研究や高齢動物看護の現状について、実際に現場で活躍している研究者や獣医療従事者から生の声を聴き、ディスカッションを行う。	老化という生物学的現象や高齢動物の獣医療・看護について、自身が興味を持ったことや解決したい今後の課題などについて調べること。			

9	老化研究や高齢動物看護の現状について、実際に現場で活躍している研究者や獣医療従事者から生の声を聴き、ディスカッションを行う。	老化という生物学的現象や高齢動物の獣医療・看護について、自身が興味を持ったことや解決したい今後の課題などについて調べること。(30分程度)
10	老化研究や高齢動物看護の現状について、実際に現場で活躍している研究者や獣医療従事者から生の声を聴き、ディスカッションを行う。	老化という生物学的現象や高齢動物の獣医療・看護について、自身が興味を持ったことや解決したい今後の課題などについて調べること。(30分程度)
11	老化研究や高齢動物看護の現状について、実際に現場で活躍している研究者や獣医療従事者から生の声を聴き、ディスカッションを行う。	老化という生物学的現象や高齢動物の獣医療・看護について、自身が興味を持ったことや解決したい今後の課題などについて調べること。(30分程度)
12	プレゼンテーション&ディスカッション1	各自で興味を持った高齢動物に関するトピックについて、なぜその問題に注目したのか、どうすれば問題を解決できるのかなど、自らの考えをまとめたプレゼンテーションファイルを準備しておく。(120分程度)
13	プレゼンテーション&ディスカッション2	各自で興味を持った高齢動物に関するトピックについて、なぜその問題に注目したのか、どうすれば問題を解決できるのかなど、自らの考えをまとめたプレゼンテーションファイルを準備しておく。(120分程度)
14	プレゼンテーション&ディスカッション3	各自で興味を持った高齢動物に関するトピックについて、なぜその問題に注目したのか、どうすれば問題を解決できるのかなど、自らの考えをまとめたプレゼンテーションファイルを準備しておく。(120分程度)
15	講義の総括と、フリーディスカッション	第14回までの講義内容をもとに、高齢動物の看護に対する自らの考えをまとめておくこと。(120分程度)
教科書	資料を配布する。	
参考書	指定しない。	
関連科目	獣医関連生命科学総合講義Ⅰ・Ⅱ、動物看護学特論、高度動物看護学特別演習	
キーワード	老化、老年性疾患、老年看護、介護	
授業の運営方針	パワーポイントと資料を用いて、講義形式で進める。	
アクティブラーニングを促すための手法	ディスカッション/質問	
アクティブラーニング	講義後に課題を出し、自分なりの考えをまとめレポート提出。	
課題に対するフィードバック	講義中の質問へは講義中に、講義後の課題は後日に、フィードバックを行なう。	
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。	
その他(注意・備考)		
連絡先	木村展之 病院棟3階315号室 nobu-kimura@ous.ac.jp	

(是正事項) 獣医学研究科 獣医保健看護学専攻 (M)

5. 設置の趣旨等を記載した書類 (本文) P13 の「(1) 専門科目」において「特論科目から 1 科目を選択必修とする」旨の説明がなされているが、基本計画書の教育課程等の概要における「卒業要件及び履修方法」には選択必修に関する記載が見受けられず、本課程の適切な修了要件が設定されているとは判断できない。このため、本課程の修了要件を明確に示すとともに、必要に応じ、関連する各資料の記載について適切に改めること。

(対応)

是正事項をふまえ、本課程の修了要件を明確にするために基本計画書の教育課程等の概要の「卒業要件及び履修方法」に選択必修に関する記載を追加する。具体的には、「専門科目の選択科目(「高齢動物科学特論」「動物感染症特論」「飼育動物学特論」「動物福祉学特論」「動物看護学特論」から 2 単位以上を含む)及び演習科目の選択科目から 8 単位」と修正する。また、設置の趣旨等を記載した書類においても「V 5. 課程修了の要件」において記載を改める。

(新旧対照表) 基本計画書の教育課程等の概要

新	旧
(卒業要件及び履修方法) 必修科目の「特別研究」12 単位、「獣医保健看護学特別演習 I～IV」8 単位、「獣医関連生命科学総合講義 I～II」4 単位を合わせた 24 単位と、 <u>専門科目の選択科目</u> (「 <u>高齢動物科学特論</u> 」「 <u>動物感染症特論</u> 」「 <u>飼育動物学特論</u> 」「 <u>動物福祉学特論</u> 」「 <u>動物看護学特論</u> 」から 2 単位以上を含む) <u>及び演習科目の選択科目から 8 単位を合わせた計 32 単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上で、修士論文審査および最終試験に合格すること。</u>	(卒業要件及び履修方法) 必修科目の「特別研究」12 単位、「獣医保健看護学特別演習 I～IV」8 単位、「獣医関連生命科学総合講義 I～II」4 単位を合わせた 24 単位と、 <u>専門科目または演習科目の選択科目から 8 単位を合わせた計 32 単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上で、修士論文審査および最終試験に合格すること。</u>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (21、22 ページ)

新	旧
<p>5. 課程修了の要件 < 獣医保健看護学専攻 (修士課程) > (略)</p> <p>(2) 単位取得数</p> <p>修了要件は、岡山理科大学大学院学則第12条第1項に基づき、32単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験に合格することである。各科目区分において修得が必要な単位数は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>専門科目</u> <u>「獣医関連生命科学総合講義Ⅰ、Ⅱ」</u> 各2単位、合計4単位は必修 ・ <u>演習科目</u> <u>「獣医保健看護学特別演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」</u> 各2単位、合計8単位は必修 ・ <u>専門科目の選択科目 (「高齢動物科学特論」「動物感染症特論」「飼育動物学特論」「動物福祉学特論」「動物看護学特論」から2単位以上を含む) 及び演習科目の選択科目から合計8単位</u> ・ <u>特別研究</u> <u>「特別研究」12単位は必修</u> 	<p>4. 課程修了の要件 < 獣医保健看護学専攻 (修士課程) > (略)</p> <p>(2) 単位取得数</p> <p>修了要件は、岡山理科大学大学院学則第12条第1項に基づき、32単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験に合格することである。各科目区分において修得が必要な単位数は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>専門科目及び演習科目：合計20単位以上</u> ・ <u>特別研究：「特別研究」合計12単位</u>

(是正事項) 獣医学研究科 獣医保健看護学専攻 (M)

6. 設置の趣旨等を記載した書類(資料)の資料1-1(ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、及び養成する人材像との相関)において、本課程のアドミッション・ポリシー「A. 知識・理解」について「専門的な日本語・英語力を身に付けている」ことを掲げている。しかしながら、設置の趣旨等を記載した書類(本文)P25に示された「入学者選抜の基本方針」では、例えば、推薦入試については「学士課程相当の動物看護学、又は公共獣医事、動物科学、生命科学分野の基礎的事項の修得状況」や「基礎知識を使いこなす能力」、「学習・研究に関する意欲と能力」等を評価することが示されているものの、一般入試や社会人特別選抜に示されている「科学技術分野に関わる英語の能力」が、推薦入試には示されていないことから、アドミッション・ポリシーに掲げる能力を適切に確認することができる入学者選抜となっているのか疑義がある。さらに、本課程のアドミッション・ポリシーにおいて「特別研究を遂行するために必要なコミュニケーションスキル」を有することを掲げる一方で、入学者選抜における推薦入試の選考方法は「書類審査」のみであり、アドミッション・ポリシーに掲げられた資質・能力を、「書類審査」によってどのように評価することができるのか説明がなされていないことから、選考方法の妥当性にも疑義がある。このため、本課程が定めるアドミッション・ポリシーについて、入学時において全ての学生に求めるものであるのか、又はアドミッション・ポリシーのいずれかを中核的な資質・能力として設定した上で、当該資質・能力を全ての学生に求めつつ、他のアドミッション・ポリシーについて選抜区分ごとに異なる比重で判定するものであるのかを明らかにした上で、前者であれば各入学者選抜において、本課程の定める各アドミッション・ポリシーに対応した資質・能力が「入学者選抜の基本方針」に掲げられ、当該資質・能力を適切に身に付けていることを確認することができる選考方法が設けられていることについて改めて明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。後者である場合には、判定しない又は極めて比重の低いアドミッション・ポリシーに掲げる資質・能力を持つ学生に対して、どのようにディプロマ・ポリシーの達成を担保するのかについて、適切なカリキュラム・ポリシーと教育課程が編成されていることを含めて説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

本課程が定めるアドミッション・ポリシーは、入学時においてすべての学生に求めるものである。したがって、是正意見を受け、アドミッション・ポリシーに対応した資質・能力を適切に身につけていることを確認できる選考方法を設定するため、推薦入試の入学者選抜の基本方針、及び入学者の選抜方法を改める。

まず、推薦入試の入学者選抜の基本方針において「科学技術分野に関わる英語の能力を評

価する」を追加する。

次に、入学者の選抜方法において推薦入試では、アドミッション・ポリシーにある「科学技術分野に関わる英語の能力」と「特別研究を遂行するために必要なコミュニケーションスキル」について評価するために審査の一部として書類審査に加え口頭試問を行うよう修正する。ここで「科学技術分野に関わる英語の能力」とは、単に英会話能力ではなく、英語文献やインターネット情報より科学技術分野に関わる最新の情報を得る能力、及びそれらが正確な情報であるかを批評的に考察する能力を示す。すなわち、「科学技術分野に関わる英語の能力」を評価するためには、書類審査では提出された所属大学からの推薦及び学部在籍時の成績（総合 GPA と英語科目の成績）を確認する。そして口頭試問において科学技術分野に関わる最新の知識を取得しているかを確認しアドミッション・ポリシーに基づいたルーブリック法を用いて研究科専任教員により評価する。このように提出される最終学歴における英語科目の成績の「書類審査」と口頭試問の結果を合わせて評価することで、他の選抜区分と同じ比重で判定できると考える。上記をより明確にするために、「設置の趣旨等を記載した書類」「VII. 入学者選抜の概要」において「3. 入学者の選抜方法」「4. 選抜体制」の一部と共に誤字を修正する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (25 ページ)

新	旧
<p><入学者選抜の基本方針></p> <p>○推薦入試</p> <ul style="list-style-type: none">・ 学士課程相当の動物看護学、又は公共獣医事、動物科学、生命科学分野の基礎的事項の修得状況を評価する。・ <u>科学技術分野に関わる英語の能力を評価する。</u>・ 基礎知識を使いこなす能力を評価する。・ 学習・研究に関する意欲と能力を評価する。	<p><入学者選抜の基本方針></p> <p>○推薦入試</p> <ul style="list-style-type: none">・ 学士課程相当の動物看護学、又は公共獣医事、動物科学、生命科学分野の基礎的事項の修得状況を評価する。・ 基礎知識を使いこなす能力を評価する。・ 学習・研究に関する意欲と能力を評価する。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (31 ページ)

新			旧																				
<p>(表 3) 修士課程の入学者選抜の方式と選考方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">入学者選抜の方式</th> <th>選考方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>推薦入試</td> <td>推薦入試</td> <td>書類審査, <u>口頭試問</u></td> </tr> <tr> <td></td> <td>(略)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			入学者選抜の方式		選考方法	推薦入試	推薦入試	書類審査, <u>口頭試問</u>		(略)		<p>(表 4) 修士課程の入学者選抜の方式と選考方法 <u>(春入学)</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">入学者選抜の方式</th> <th>選考方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>推薦入試</td> <td>推薦入試</td> <td>書類審査</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(略)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			入学者選抜の方式		選考方法	推薦入試	推薦入試	書類審査		(略)	
入学者選抜の方式		選考方法																					
推薦入試	推薦入試	書類審査, <u>口頭試問</u>																					
	(略)																						
入学者選抜の方式		選考方法																					
推薦入試	推薦入試	書類審査																					
	(略)																						
<p>選抜方法は、本研究科の教育を受けるにふさわしい能力と適性を備えた人材を適正に判断するために、推薦入試では、推薦条件に照らし、所属大学からの推薦及び学部在籍時の成績(総合 GPA と英語科目の成績)・<u>推薦書についての書類審査、及び専門的な知識を問うための口頭試問の結果に基づき選抜する。推薦入試・一般入試・社会人特別選抜の口頭試問においては、基礎知識と専門知識を使いこなす能力と学習・研究に関する意欲と能力を評価すると共に、科学技術分野における英語の能力について、専門的な最先端の知識を正確に理解しているかによって評価する。</u></p>			<p>選抜方法は、本研究科の教育を受けるにふさわしい能力と適性を備えた人材を適正に判断するために、推薦入試では、推薦条件に照らし、所属大学からの推薦及び学部在籍時の成績 (GPA) に基づき選抜する。<u>一般入試においては、専門科目、英語、口頭試問により評価する。社会人特別選抜においては、専門科目、英語、口頭試問を実施する。</u></p>																				

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (33 ページ)

新	旧
<p>4. 選抜体制 (略) 入試実施においては、監督実施要項を作成し、試験監督を担当する教職員全員に対して監督者説明会を実施し、適切な試験が実施されるように教室の環境整備、電子機器の使用に関する注意、当日の問題訂正手順、緊急時の対応について周知徹底する。採点と答案の確認を専攻会議にて複数名によって行う。<u>口頭試問は、受験生個別の面接形</u></p>	<p>4. 選抜体制 (略) 入試実施においては、監督実施要項を作成し、試験監督を担当する教職員全員に対して監督者説明会を実施し、適切な試験が実施されるように教室の環境整備、電子機器の使用に関する注意、当日の問題訂正手順、緊急時の対応について周知徹底する。採点と答案の確認を専攻会議にて複数名によって行う。</p>

<p>式で実施する。質問内容は事前に研究科委員会にて十分に打ち合わせ、採点は複数教員によるルーブリック法を用いて実施する。</p>	
---	--

審査意見への対応を記載した書類（6月）

（目次）獣医学研究科 獣医学専攻（D）

【教育課程等】

1. 演習科目として配置されている「獣医いきもの QOL ラボ特別演習」について、シラバスを見ると、本授業科目の達成目標に「デバイスのコンセプトを立案し、開発を目指す」ことを掲げ、第4回の「プログラミング研究」において、デバイス設計に必要なプログラミングに関する内容が設けられている。しかしながら、プログラミングに関する授業は第4回の1回のみであり、その後の授業回で行う研究開発計画書の作成等に必要な能力を適切に身に付けることができる授業構成となっているのか疑義がある。このため、本授業科目の教育課程上の位置付けや目的を踏まえた上で、設定された目標を達成することができる適切な授業内容となっていることについて説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
2. 設置の趣旨等を記載した書類（本文）の「Ⅶ. 入学者選抜の概要」において、秋入学を実施することが説明されているが、秋入学の学生に対する研究指導計画やカリキュラムを踏まえた履修モデル等のスケジュールや計画が示されておらず、本課程に入学する全ての学生に対して、適切なカリキュラムが提供され、研究指導が実施されるのか判断することができない。このため、設置の趣旨等を記載した書類（資料）で示された「資料2-2 カリキュラムツリー」との整合性を踏まえつつ、「資料8-2 入学から修了までのスケジュール」について秋入学を踏まえた資料を示しながら、秋入学の学生に対する入学前から修了までの研究指導や履修指導について、適切な体制や計画となっていることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。【研究科共通】（是正事項）58
3. 設置の趣旨等を記載した書類（資料）の資料8-2「獣医学研究科博士課程 入学から修了までのスケジュール」において示された、修了年次以外の秋学期に作成・審査することとなっている「大学院生研究活動報告書」について、設置の趣旨等を記載した書類（本文）に関連する説明が見受けられないことから、本報告書が本研究科の研究指導においてどのように位置付けられ、学生の研究活動や評価に関わるものであるのか判断することができない。このため、「大学院生研究活動報告書」について、学生の研究活動の中でどのように位置付けられ、評価等にどのように活用されるものであるのか具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。【研究科共通】（改善事項）・・・・・・・・・・・・60

【教員組織】

4. 設置の趣旨等を記載した書類（本文）の「3. 研究指導」において、本研究科では、各学生に対して指導教員（主）と指導教員（副）による複数指導教員制で研究指導を行うこ

とを説明するとともに、本課程については「1年次4月に2名以上の指導教員（副）を決定する」と説明していることから、少なくとも1名の学生に対して3名以上の教員体制によって研究指導が行われるものと見受けられる。しかしながら、本課程については、研究指導教員が教授8名のみであり、パブリックヘルスサイエンス分野及びクリニカルサイエンス分野については、それぞれ研究指導教員が2名のみであることを踏まえると、これらの研究分野を選択した学生に対し、同分野の指導が可能な教員が3名に満たないことから、3名以上の教員体制による研究指導を行うことができるのか疑義がある。また、研究指導教員が4名配置されているライフサイエンス分野についても、指導教員（副）の人数が2名以上とされていることから、1名の学生に対し過度に多くの指導教員（副）が配置される場合には、当該研究領域についても、十分な研究指導体制を確保することができるのか判断できない。このため、各研究領域において、各学生に対して適切な研究指導を行うことができる指導体制が整えられていることについて明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・66

(是正事項) 獣医学研究科 獣医学専攻 (D)

1. 演習科目として配置されている「獣医いきもの QOL ラボ特別演習」について、シラバスを見ると、本授業科目の達成目標に「デバイスのコンセプトを立案し、開発を目指す」ことを掲げ、第4回の「プログラミング研究」において、デバイス設計に必要なプログラミングに関する内容が設けられている。しかしながら、プログラミングに関する授業は第4回の1回のみであり、その後の授業回で行う研究開発計画書の作成等に必要能力を適切に身に付けることができる授業構成となっているのか疑義がある。このため、本授業科目の教育課程上の位置付けや目的を踏まえた上で、設定された目標を達成することができる適切な授業内容となっていることについて説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

是正事項をふまえ、本授業科目の教育課程上の位置づけや目的に合わせて、講義目的を改めるとともに、授業内容の一部を改める。

本専攻の養成する人材像のうち「Evidence-Based Veterinary Medicine」を修得した次世代の Tailor-Made Veterinary Medicine の担い手となる臨床獣医師、動物看護師及びそれら最先端の獣医療を追及できる次世代クリニカルサイエンス研究者」の養成のため、「獣医いきもの QOL ラボ特別演習」はカリキュラム・ポリシーC；関心・意欲・態度において「獣医学に対する主体的な探求心や多角的な視野、及び動物福祉に関する倫理観を涵養する科目のうちの選択科目と位置付けている。

したがって、この特別演習では、主体的な探求心や多角的な視野を養うために、デバイス開発というテーマを用い、履修生が主体的に計画を立案することを基盤とする。博士課程では特に、履修生の主体性を重視しグループリーダーとして自ら研究計画を立案できることを講義目的の一部として設定する。これをふまえ、授業科目の概要において、当該科目の概要に記載した目的を「3）共同研究を通じて問題解決に向けたデバイスのコンセプトを立案し、開発を目指す」から「3）共同研究を通じて問題解決に向けたデバイスのコンセプトを主体的に立案する手法を理解する」に改める。また、修正前のシラバスでは講義目的に「共同研究を通じて問題解決に向けたデバイスのコンセプトを立案し、開発を目指す」と記載したが、是正意見を受けて、養成する人材像及び教育課程上の位置づけをふまえ、講義目的を「デバイスのコンセプトを主体的に立案する手法を理解する」に修正する。この講義目的を実現するためには、1) センサーデバイスとそれを操作するためのコンセプトの理解、2) 関連法律とマーケティング戦略に関する基礎知識、3) 開発グループ及び共同研究者とのコミュニケーション、4) 研究開発計画書の作成技能が必要となる。したがって、第4回の授業において取り扱う内容を「デバイス設計に必要なプログラミング」ではなく、1) の一部として「センサー機器から送信される信号を受信するマイコンにプログラムされたアルゴリ

ズムの構造と遠隔通信方法を学ぶこと」と変更する。これにより、第4回で実施する1回分の授業を含めた15回の授業で研究開発計画書の作成に必要な能力を涵養できると考える。

さらに本専攻博士課程の養成する人材像に基づき、本授業科目にて身に付けることのできる専門性を明確にするため、シラバスの授業内容（第2回から7回及び第12回から15回）において各回で何を学ぶのか詳細な記述を加えると共に「設置の趣旨等を記載した書類」 「V. 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件」において「1. 教育方法」＜獣医学専攻（博士課程）＞の一部を修正する。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（18ページ）

新	旧
同じく通年開講の「 <u>獣医いきもの QOL ラボ特別演習</u> 」では、 <u>獣医学研究科と理工学研究科の教員が協力して、獣医療の観点に基づくデバイス開発といった分野融合型のテーマ演習を行うことで学生の主体性を引き出す。</u>	同じく通年開講の「 <u>獣医いきもの QOL ラボ特別演習</u> 」では理工学研究科の教員からの <u>指導により学生が主体的に実践的な演習を行う。</u>

授業科目の概要			
(獣医学研究科 獣医学専攻 博士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目	獣医いきものQOLラボ特別演習	<p>工学系教員との共同研究を計画することを演習テーマとすることで、獣医学専門家が目標とするいきものQOL向上を目指す上での研究の推進に障害となる様々な問題を主体的に発見し、それらの解決のための手法とプロセスを考察することを目的とする。1) 「ものづくり」の基盤となる基本的な技術のコンセプトを修得する。2) 特別研究を通じて教育病院、実験室、フィールドにおいて業務遂行に障害となっている問題を見いだす。3) 共同研究を通じて問題解決に向けたデバイスのコンセプトを主体的に立案する手法を理解する。4) IoTデバイスを用いた研究で得られたデータの有用性を理解する。5) 問題解決手段に関係する法律の視点からの考察を行う。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>① 江藤真澄/7回) 獣工連携の将来性といきものQOLプロジェクトの概要の解説と履修者の修学目標設定、獣医療工学/獣医療福祉工学において必要となり得る法律について具体例のケーススタディー、研究開発計画書作成、研究計画計画書の模擬ピア・レビュー審査会、グループテーマのプレゼンテーション準備、発表のアウトラインを作成することに関する演習を行う。</p> <p>② 水野理介/1回) 獣医関連課題研究：獣医療と関連分野における最先端の課題について議論することで演習を行う。</p> <p>① 江藤真澄、② 水野理介/1回) グループで準備したプレゼンテーションを発表することで演習を行う。</p> <p>① 江藤真澄、② 水野理介、③ 赤木徹也/2回) 獣医療工学/獣医療福祉工学において有用な生体センサーとなり得るデバイスの具体例を考察することで演習を行う。</p> <p>① 江藤真澄、② 水野理介、③ 赤木徹也/4回) 研究経過のブレインストーミング、研究開発テーマプレゼンテーション、ピア・レビュー、総括・公開発表会を通じて演習を行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

授業科目の概要			
(獣医学研究科 獣医学専攻 博士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目	獣医いきものQOLラボ特別演習	<p>工学系教員との共同研究を計画することを演習テーマとすることで、獣医学専門家が目標とするいきもののQOL向上を目指す上での研究の推進に障害となる様々な問題を発見し、それらの解決のための手法とプロセスを考察することを目的とする。1) 「ものづくり」の基盤となる基本的な技術のコンセプトを修得する。2) 特別研究を通じて教育病院、実験室、フィールドにおいて業務遂行に障害となっている問題を見いだす。3) 共同研究を通じて問題解決に向けたデバイスのコンセプトを立案し、開発を目指す。4) IoTデバイスを用いた研究で得られたデータの有用性を理解する。5) 問題解決手段に関係する法律の視点からの考察を行う。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 江藤真澄/7回) 獣工連携の将来性といきものQOLプロジェクトの概要の解説と履修者の修学目標設定、獣医療工学/獣医療福祉工学において必要となり得る法律について具体例のケーススタディー、研究開発計画書作成、研究計画計画書の模擬ピア・レビュー審査会、グループテーマの作製、グループテーマのプレゼンテーション準備、発表のアウトラインを作成することに関する演習を行う。</p> <p>(7 水野理介/1回) 獣医関連課題研究：獣医療と関連分野における最先端の課題について議論することで演習を行う。</p> <p>(1 江藤真澄、7 水野理介/1回) グループで準備したプレゼンテーションを発表することで演習を行う。</p> <p>(1 江藤真澄、9 赤木徹也/2回) 獣医療工学/獣医療福祉工学において有用な生体センサーとなり得るデバイスの具体例を考察することで演習を行う。</p> <p>(1 江藤真澄、7 水野理介、9 赤木徹也/4回) 研究経過のブレインストーミング、研究開発テーマプレゼンテーション、ピア・レビュー、総括・公開発表会を通じて演習を行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

(新旧対照表) シラバス 【新】

授業科目	獣医いきものQOLラボ特別演習			必修選択	選択
英文科目名	QOL for All Lives in Veterinary Medical Science				
対象研究科専攻/対象年次	獣医学研究科獣医学専攻 /1・2・3・4年	単位数	2	開講期	通
担当教員	江藤真澄(科目責任者)、水野理介、赤木徹也(兼任)			授業形態	演習
講義目的	工学系教員との共同研究を計画することを演習テーマとすることで、獣医学専門家が目標とするいきもののQOL向上を目指す上での研究の推進に障害となる様々な問題を主体的に発見し、それらの解決のための手法とプロセスを考察することを目的とする。1) 「ものづくり」の基盤となる基本的な技術のコンセプトを修得する。2) 特別研究を通じて教育病院、実験室、フィールドにおいて業務遂行に障害となっている問題を見出す。3) 共同研究を通じて問題解決に向けたデバイスのコンセプトを主体的に立案する手法を理解する。4) IoTデバイスを用いた研究で得られたデータの有用性を理解する。5) 問題解決手段に関係する法律の視点からの考察を行う。				
達成目標	1) 「ものづくり」の基盤となる基本的な技術のコンセプトを説明できる。2) 特別研究を通じて教育病院、実験室、フィールドにおいて業務遂行に障害となっている問題を見出すことができる。3) 共同研究を通じて問題解決に向けたデバイスのコンセプトを立案し、開発方法を説明できる。4) 研究で得られたデータの有用性を説明できる。5) 問題解決手段に関係する法律の視点を説明できる。(全てディプロマ・ポリシーのCに最も強く関連する)				
成績評価	本演習の担当教員が内容と成果を客観的に評価し、各分野に関する専門知識とプレゼンテーション能力が獲得できていると判断できる場合はその到達度に応じて、セミナーや発表会での発表と質疑応答も合わせて総合的に評価する。(100%)				
回	授業内容	準備学習			
1	オリエンテーション：獣工連携の将来性といきものQOLプロジェクトの概要の解説と履修者の修学目標設定を行う。(江藤)	医学と工学が融合した医工連携の実施例を調査し、その結果に基づいて自分の研究に沿って考察しておくこと。(120分程度)			
2	獣医関連課題研究：獣医療と関連分野における現在と将来の課題、最先端の獣医療関連デバイスについて議論する。(水野)	自分の興味のある獣医学分野における課題について考えておくこと。(120分程度)			
3	センサーデバイス研究：獣医学分野が関連する獣医療工学/獣医療福祉工学において有用な生体センサーとなり得る最先端技術を含むデバイスの概要と具体的な制作例とそれらから得られるデータの解析戦略について議論する。(赤木、江藤)	医療工学/医療福祉工学において使われているデバイスについて調査しておくこと。(120分程度)			
4	プログラミング研究：デバイス設計に必要なセンサーから送信される信号の解析アルゴリズムの基本について議論する。デバイスに装着するマイコンよりセンサーの時間解像度、感度、および信号特性を検知し、数値ファイルとして保存するために必要なアルゴリズムの構造、及びデバイスの遠隔通信に関する技術に関して講義を行い、実際のデバイスを用いてパラメータの調整概念を学ぶ。(赤木、江藤)	プログラミングの基本について予習すること。(60分程度)			
5	関連法律研究：獣医学が関連する獣医療工学/獣医療福祉工学に関連する既存のデバイスに関して、学生がそれらに関連した法律について、調査・発表し、クラス内で議論する。(江藤)	獣医療分野における法的な問題事例について調査しておくこと。(60分程度)			
6	マーケティング研究：獣医学が関連する医療・獣医療関連商品開発の可能性と産学官連携の事例を学生が調査、その結果を発表し、クラス内でマーケティングの視点から考察する。(江藤)	指定される基本的なマーケティング概念に関する資料を読んでおくこと。(60分程度)			
7	ブレインストーミング：1~6回の授業内容と自らの調査結果に基づき、各自が獣医学に関連する5つのデバイス案を発表する。発表内容について質疑したのちに一つのテーマを決定する。(江藤、水野、赤木)	獣医療工学/獣医療福祉工学をベースとしたデバイス案を5つ用意すること。(120分程度)			

8	研究開発テーマプレゼンテーション1回目：第7回に決定した一つのデバイスの研究開発の詳細についてプレゼンテーションする。それぞれの計画について質疑を行い、計画の弱点などを見だし改善点を把握する。（江藤、水野、赤木）	デバイス研究開発計画を紹介するプレゼンテーションを用意すること。（120分程度）
9	研究開発計画書草案作成：第8回の議論の内容を基に用意された書式に沿って研究開発計画書を作成する。それらを互いに精読し、長所と改善点をリストアップする。（江藤）	指定の書式の沿った研究開発計画書を用意しておくこと。（120分程度）
10	研究開発計画書審査会：教員が座長となり、各自の研究計画計画書の模擬ピア・レビュー審査会を行う。（江藤）	指定の書式に沿ったピア・レビュー報告書を用意しておくこと。（120分程度）
11	研究開発テーマプレゼンテーション2回目：第10回までに修正したデバイスの研究開発の詳細についてプレゼンテーションする。それぞれの計画について質疑を行い、ピア・レビューで評価する。（江藤、水野、赤木）	デバイス研究開発計画を紹介するプレゼンテーションを用意すること。（120分程度）
12	グループディスカッション：各自のテーマに基づき、共通性を議論し共同開発の可能性について議論を行う。（江藤）	各自の研究計画について復習し、共通点を見いだしておくこと。（60分程度）
13	プレゼンテーション予行練習：共同開発の可能性を含めて、最終的なプレゼンテーションを発表する。教員からのフィードバックに対応して議論を深める。（江藤、水野）	グループ内できめた役割について準備しておくこと。（60分程度）
14	公開発表会：獣医学研究科と理工学研究科の教員・学生に対してグループ発表を行い、質疑応答を行う。（江藤、水野、赤木）	グループ発表を準備しておくこと。（120分程度）
15	総括・講評：公開発表会における理工学研究科からのフィードバック、提案などを議論すると共に、デバイス開発へ向けた計画の最終案をまとめる。	フィードバックを受けてプレゼンテーションを改善し公開発表会の準備をすること。（120分程度）
教科書	資料を配布する。	
参考書	指定しない。	
関連科目	フロンティア獣医学総合講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、特別研究Ⅰ・Ⅱ、ゼミナール	
キーワード	獣工連携、獣医療工学、獣医療福祉工学	
授業の運営方針	対面、オンラインを組み合わせる演習を進める。	
アクティブラーニングを促すための手法	ディスカッション・質問・発表	
アクティブラーニング	各回の演習において課題に取り組む。	
課題に対するフィードバック	演習中の質問へは演習中に、演習後の課題は後日に、フィードバックを行なう。	
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。	
その他（注意・備考）		
連絡先	江藤真澄 学部棟6階620号室 m-eto@ous.ac.jp	

(新旧対照表) シラバス 【旧】

授業科目	獣医いきものQOLラボ特別演習			必修選択	選択
英文科目名	QOL for All Lives in Veterinary Medical Science				
対象研究科専攻/対象年次	獣医学研究科獣医学専攻 /1・2・3・4年	単位数	2	開講期	通
担当教員	江藤真澄(科目責任者)、水野理介、赤木徹也(兼担)			授業形態	演習
講義目的	工学系教員との共同研究を計画することを演習テーマとすることで、獣医学専門家が目標とするいきもののQOL向上を目指す上での研究の推進に障害となる様々な問題を発見し、それらの解決のための手法とプロセスを考察することを目的とする。1) 「ものづくり」の基盤となる基本的な技術のコンセプトを修得する。2) 特別研究を通じて教育病院、実験室、フィールドにおいて業務遂行に障害となっている問題を見いだす。3) 共同研究を通じて問題解決に向けたデバイスのコンセプトを立案し、開発を目指す。4) IoTデバイスを用いた研究で得られたデータの有用性を理解する。5) 問題解決手段に関する法律の視点からの考察を行う。				
達成目標	1) 「ものづくり」の基盤となる基本的な技術のコンセプトを説明できる。2) 特別研究を通じて教育病院、実験室、フィールドにおいて業務遂行に障害となっている問題を見いだすことができる。3) 共同研究を通じて問題解決に向けたデバイスのコンセプトを立案し、開発方法を説明できる。4) 研究で得られたデータの有用性を説明できる。5) 問題解決手段に関する法律の視点を説明できる。(全てディプロマ・ポリシーのCに最も強く関連する)				
成績評価	本演習の担当教員が内容と成果を客観的に評価し、各分野に関する専門知識とプレゼンテーション能力が獲得できていると判断できる場合はその到達度に応じて、セミナーや発表会での発表と質疑応答も合わせて総合的に評価する。(100%)				
回	授業内容	準備学習			
1	オリエンテーション：獣工連携の将来性といきものQOLプロジェクトの概要の解説と履修者の修学目標設定を行う。(江藤)	医学と工学が融合した医工連携の実施例を調査し、その結果に基づいて自分の研究に沿って考察しておくこと。(120分程度)			
2	獣医関連課題研究：獣医療と関連分野における最先端の課題について議論する。(水野)	自分の興味のある獣医学分野における課題について考えておくこと。(120分程度)			
3	センサーデバイス研究：獣医療工学/獣医療福祉工学において有用な生体センサーとなり得るデバイスの具体例について議論する。(赤木、江藤)	医療工学/医療福祉工学において使われているデバイスについて調査しておくこと。(120分程度)			
4	プログラミング研究：デバイス設計に必要なプログラミングを行う。(赤木、江藤)	プログラミングの基本について予習すること。(60分程度)			
5	関連法律研究：獣医療工学/獣医療福祉工学において必要となり得る法律について具体例のケーススタディーを行う。(江藤)	獣医療分野における法的な問題事例について調査しておくこと。(60分程度)			
6	マーケティング研究：医療・獣医療関連商品開発のためのマーケティング戦略を立案する。(江藤)	指定される基本的なマーケティング概念に関する資料を読むこと。(60分程度)			
7	ブレインストーミング：各自5つのデバイス案を発表する。発表内容について質疑したのちに一つのテーマを決定する。(江藤、水野、赤木)	獣医療工学/獣医療福祉工学をベースとしたデバイス案を5つ用意すること。(120分程度)			

8	研究開発テーマプレゼンテーション1回目：第7回に決定した一つのデバイスの研究開発の詳細についてプレゼンテーションする。それぞれの計画について質疑を行い、計画の弱点などを見だし改善点を把握する。（江藤、水野、赤木）	デバイス研究開発計画を紹介するプレゼンテーションを用意すること。（120分程度）
9	研究開発計画書草案作成：第8回の議論の内容を基に用意された書式に沿って研究開発計画書を作成する。それらを互いに精読し、長所と改善点をリストアップする。（江藤）	指定の書式の沿った研究開発計画書を用意しておくこと。（120分程度）
10	研究開発計画書審査会：教員が座長となり、各自の研究計画計画書の模擬ピア・レビュー審査会を行う。（江藤）	指定の書式に沿ったピア・レビュー報告書を用意しておくこと。（120分程度）
11	研究開発テーマプレゼンテーション2回目：第10回までに修正したデバイスの研究開発の詳細についてプレゼンテーションする。それぞれの計画について質疑を行い、ピア・レビューで評価する。（江藤、水野、赤木）	デバイス研究開発計画を紹介するプレゼンテーションを用意すること。（120分程度）
12	グループ開発テーマ探索：第11回に発表された各自の開発計画を組み合わせて一つの開発テーマにすることを協議する。グループテーマにするために必要な準備を行う際のグループ内で役割をきめる。（江藤）	各自の研究計画について復習し、共通点を見いだしておくこと。（60分程度）
13	グループディスカッション：グループテーマのプレゼンテーション準備のためのディスカッションを行う。発表のアウトラインを作成する。（江藤）	グループ内できめた役割について準備しておくこと。（60分程度）
14	プレゼンテーション予行練習：グループで準備したプレゼンテーションを発表する。教員からのフィードバックに対応して議論を深める。（江藤、水野）	グループ発表を準備しておくこと。（120分程度）
15	総括・公开发表会：獣医学研究科と理工学研究科の教員・学生に対してグループ発表を行い、質疑応答を行う。（江藤、水野、赤木）	フィードバックを受けてプレゼンテーションを改善し公开发表会の準備をすること。（120分程度）
教科書	資料を配布する。	
参考書	指定しない。	
関連科目	フロンティア獣医学総合講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、特別研究Ⅰ・Ⅱ、ゼミナール	
キーワード	獣工連携、獣医療工学、獣医療福祉工学	
授業の運営方針	対面、オンラインを組み合わせる。演習を進める。	
アクティブラーニングを促すための手法	ディスカッション・質問・発表	
アクティブラーニング	各回の演習において課題に取り組む。	
課題に対するフィードバック	演習中の質問へは演習中に、演習後の課題は後日に、フィードバックを行なう。	
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。	
その他（注意・備考）		
連絡先	江藤真澄 学部棟6階620号室 m-eto@ous.ac.jp	

(是正事項) 獣医学研究科 獣医学専攻 (D)

2. 設置の趣旨等を記載した書類(本文)の「VII. 入学者選抜の概要」において、秋入学を実施することが説明されているが、秋入学の学生に対する研究指導計画やカリキュラムを踏まえた履修モデル等のスケジュールや計画が示されておらず、本課程に入学する全ての学生に対して、適切なカリキュラムが提供され、研究指導が実施されるのか判断することができない。このため、設置の趣旨等を記載した書類(資料)で示された「資料2-2 カリキュラムツリー」との整合性を踏まえつつ、「資料8-2 入学から修了までのスケジュール」について秋入学を踏まえた資料を示しながら、秋入学の学生に対する入学前から修了までの研究指導や履修指導について、適切な体制や計画となっていることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。【研究科共通】

(対応)

是正意見を受け、本研究科において養成する人材像を考慮し、入学者選抜の内容を一部改める。当初は本学既存の大学院研究科の入学者選抜に合わせ、獣医学研究科においても秋入学を設定した。是正意見をふまえ、適切なスケジュールで研究指導を実施できるよう、カリキュラム、研究指導計画、履修モデルなどを検討したが、少人数の入学定員である本研究科においては、目指す課題解決に必要な協調性を涵養するために年に複数回の学生受け入れは妥当ではないと判断した。

このため、秋入学の計画は取り下げ、春入学のみと改め、以下の設置計画書の該当部分の文言を削除・修正した。また、表6、表8を表4、表5に修正し、表7、表9を削除する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (33 ページ)

新	旧
<p>3. 入学者の選抜方法 <獣医学専攻(博士課程)> 獣医学専攻博士課程の募集人員及び入学者選抜の方法は、(表4)～(表5)の区分とし、一般入試、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜を実施する計画である。</p> <p>(表4) 博士課程の募集人員</p> <p>削除</p>	<p>3. 入学者の選抜方法 <獣医学専攻(博士課程)> 獣医学専攻博士課程の募集人員及び入学者選抜の方法は、(表6)～(表9)の区分とし、一般入試、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜を春入学あるいは秋入学として実施する計画である。</p> <p>(表6) 博士課程の募集人員(春入学)</p> <p>(表7) 博士課程の募集人員(秋入学)</p>

<p>(表 5) 博士課程の入学者選抜の方式と選考方法</p> <p style="text-align: center;">削除</p>	<p>(表 8) 博士課程の入学者選抜の方式と選考方法 <u>(春入学)</u></p> <p><u>(表 9) 博士課程の入学者選抜の方式と選考方法 (秋入学)</u></p>
---	---

(改善事項) 獣医学研究科 獣医学専攻 (D)

3. 設置の趣旨等を記載した書類(資料)の資料8-2「獣医学研究科博士課程 入学から修了までのスケジュール」において示された、修了年次以外の秋学期に作成・審査することとなっている「大学院生研究活動報告書」について、設置の趣旨等を記載した書類(本文)に関連する説明が見受けられないことから、本報告書が本研究科の研究指導においてどのように位置付けられ、学生の研究活動や評価に関わるものであるのか判断することができない。このため、「大学院生研究活動報告書」について、学生の研究活動の中でどのように位置付けられ、評価等にどのように活用されるものであるのか具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。【研究科共通】

(対応)

改善事項をふまえ、3. 研究指導、及び資料7, 資料8-2の内容の一部を改める。資料8-2「大学院研究活動報告書」を「大学院生研究活動(実績調査)」に改め、これを「大学院生研究活動(実績調査)は学生の研究活動の進捗状況と研究成果を学生自ら、定期的に行う指導教員(主)と(副)とのディスカッションを基にして作成する報告書」として定義する。その活用方法として上述した定期的な研究活動の進捗と成果の報告のほか、「大学院生研究活動(実績調査)」を研究科委員会に提出して、教育改善ワーキンググループがこれを精査することによって、研究進捗管理と評価の公正性の管理を行う。また必要に応じて学生と指導教員(主)と(副)のヒアリングなどを行うことで指導教員と学生のコミュニケーションを促進すると共に、研究指導体制改善に向けたフィードバックを行う。

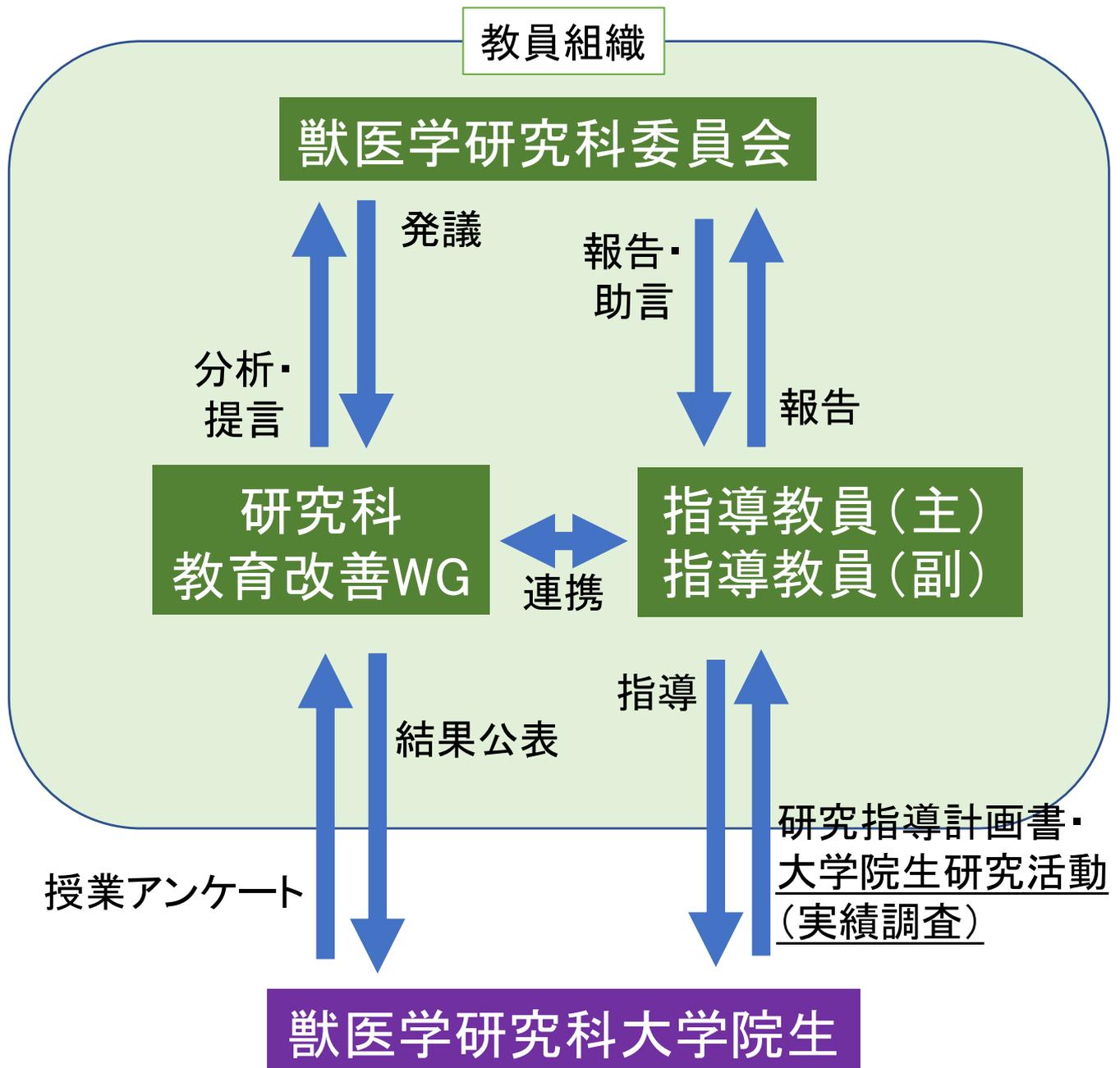
上記を明確にするために、資料8-2及び「設置の趣旨等を記載した書類」「V. 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件」において「3. 研究指導」の一部を修正する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (21 ページ)

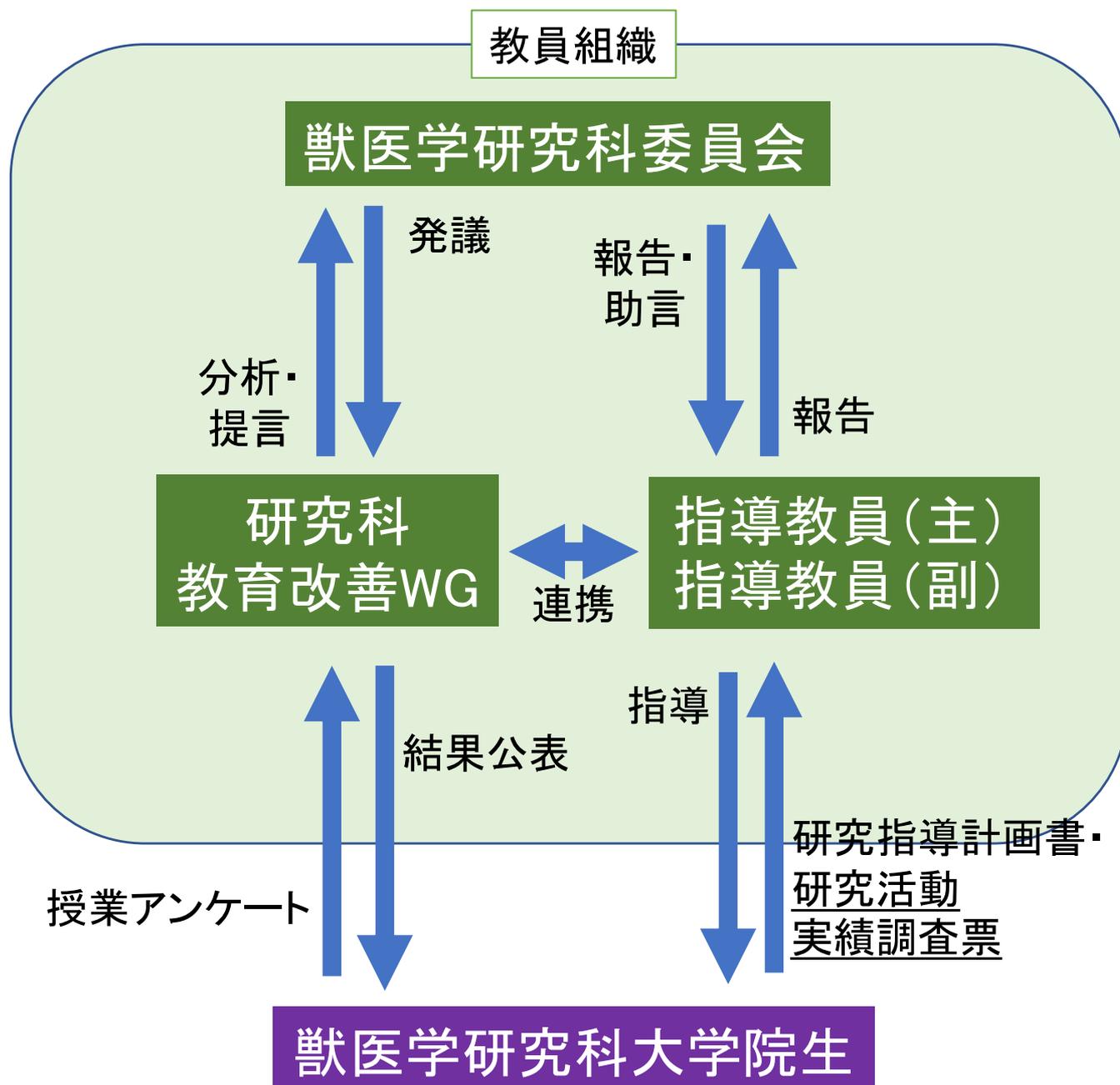
新	旧
<p>< 獣医学専攻 (博士課程) > 毎年度末には、学会発表や論文発表等を「大学院生研究活動(実績調査)」【資料10】として専攻長に報告し、学生自身に自らの研究活動状況を確認させる。「<u>大学院生研究活動(実績調査)</u>」は学生の研究活動の進捗状況と研究成果を学生自ら、定期的に行う指導教員(主)と(副)とのディスカッションを基にして作成する報告書である。この報告書を基に研究指導体制改善に向けたフィー</p>	<p>< 獣医学専攻 (博士課程) > 毎年度末には、学会発表や論文発表等を「大学院生研究活動(実績調査)」【資料10】として専攻長に報告し、学生自身に自らの研究活動状況を確認させる。</p>

<p><u>ドバックを行う。毎年度末に「ゼミナール」にて中間発表会（口頭発表）を実施し、指導教員（主）と（副）からのフィードバックに基づき博士論文作成に向けた準備を進める。指導教員（主）と（副）は「研究指導計画書（博士課程）」の内容を参考にし、「大学院生研究活動（実績調査）」、4回の中間発表会の内容に基づき博士論文執筆に関する指導を行うと共に、後述する博士論文予備審査に向けて執筆される論文草稿の論理性と内容の正確性、文体の適切性についてのフィードバックを行う。</u></p>	
--	--

獣医学研究科 教育点検システム



獣医学研究科 教育点検システム



獣医学研究科 博士課程 入学から修了までのスケジュール

1年次	2年次	3年次	4年次
春学期			
オリエンテーション (4月) DPと学位論文 審査基準の確認 履修計画の作成	オリエンテーション (4月) DPと学位論文 審査基準の確認 履修計画の作成	オリエンテーション (4月) DPと学位論文 審査基準の確認 履修計画の作成	オリエンテーション (4月) DPと学位論文 審査基準の確認 履修計画の作成
特別研究Ⅰ ゼミナール 研究倫理教育：e-ラーニング 研究指導計画書の作成	特別研究Ⅰ ゼミナール 研究指導計画書の作成	特別研究Ⅱ ゼミナール 研究指導計画書の作成	特別研究Ⅱ ゼミナール 研究指導計画書の作成
秋学期			
オリエンテーション (9月)	オリエンテーション (9月)	オリエンテーション (9月)	オリエンテーション (9月)
特別研究Ⅰ ゼミナール 博士論文研究 進捗報告会	特別研究Ⅰ ゼミナール 博士論文研究 進捗報告会	特別研究Ⅱ ゼミナール 博士論文研究 進捗報告会	特別研究Ⅱ ゼミナール 予備審査委員 会の設置 予備審査
<u>大学院生研究活動 (実績調査)</u> 作成・審査 (3月)	<u>大学院生研究活動 (実績調査)</u> 作成・審査 (3月)	<u>大学院生研究活動 (実績調査)</u> 作成・審査 (3月)	博士論文の提出 審査委員会設置
			<u>大学院生研究活動 (実績調査)</u> 作成・審査 (3月) 学位授与式 (3月)

獣医学研究科 博士課程 入学から修了までのスケジュール

1年次	2年次	3年次	4年次
春学期			
オリエンテーション (4月) DPと学位論文 審査基準の確認 履修計画の作成	オリエンテーション (4月) DPと学位論文 審査基準の確認 履修計画の作成	オリエンテーション (4月) DPと学位論文 審査基準の確認 履修計画の作成	オリエンテーション (4月) DPと学位論文 審査基準の確認 履修計画の作成
特別研究Ⅰ ゼミナール 研究倫理教育：e-ラーニング 研究指導計画書の作成	特別研究Ⅱ ゼミナール 研究指導計画書の作成	特別研究Ⅲ ゼミナール 研究指導計画書の作成	特別研究Ⅳ ゼミナール 研究指導計画書の作成
秋学期			
オリエンテーション (9月)	オリエンテーション (9月)	オリエンテーション (9月)	オリエンテーション (9月)
特別研究Ⅰ ゼミナール 博士論文研究 進捗報告会	特別研究Ⅱ ゼミナール 博士論文研究 進捗報告会	特別研究Ⅲ ゼミナール 博士論文研究 進捗報告会	特別研究Ⅳ ゼミナール 予備審査委員 会の設置 予備審査
大学院生研究活動報告書作成・ 審査 (3月)	大学院生研究活動報告書作成・ 審査 (3月)	大学院生研究活動報告書作成・ 審査 (3月)	博士論文の提出 審査委員会設置 大学院生研究活動報告書作成・ 審査 (3月)
			学位授与式 (3月)

(是正事項) 獣医学研究科 獣医学専攻 (D)

4. 設置の趣旨等を記載した書類(本文)の「3. 研究指導」において、本研究科では、各学生に対して指導教員(主)と指導教員(副)による複数指導教員制で研究指導を行うことを説明するとともに、本課程については「1年次4月に2名以上の指導教員(副)を決定する」と説明していることから、少なくとも1名の学生に対して3名以上の教員体制によって研究指導が行われるものと見受けられる。しかしながら、本課程については、研究指導教員が教授8名のみであり、パブリックヘルスサイエンス分野及びクリニカルサイエンス分野については、それぞれ研究指導教員が2名のみであることを踏まえると、これらの研究分野を選択した学生に対し、同分野の指導が可能な教員が3名に満たないことから、3名以上の教員体制による研究指導を行うことができるのか疑義がある。また、研究指導教員が4名配置されているライフサイエンス分野についても、指導教員(副)の人数が2名以上とされていることから、1名の学生に対し過度に多くの指導教員(副)が配置される場合には、当該研究領域についても、十分な研究指導体制を確保することができるのか判断できない。このため、各研究領域において、各学生に対して適切な研究指導を行うことができる指導体制が整えられていることについて明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

是正意見を受け、博士課程での研究指導方針を踏まえ、指導教員(主)と指導教員(副)の役割を明確にした上で、本専攻における研究指導体制の考え方に関する説明を加える。指導教員(主)が博士論文研究を継続的に管理し研究指導の全般に責任を持つのに対し、指導教員(副)は特定の専門知識や技術面におけるサポート、その他学生が研究を遂行するに必要なサポートを指導教員(主)と協調して行う。本専攻の養成する人材像に基づき、多角的な視点と獣医学分野を横断する研究手法を身につけさせるために、本専攻の研究指導体制において、指導教員(主)と指導教員(副)が同じ研究分野で構成するのではなく、多様性を持たせることとしている。指導教員(主)とは異なる専門分野の指導教員(副)から指導を受けることで、学生は博士論文研究の研究分野とは異なる専門的な知識、技術、問題解決に向けた視点・戦略を学ぶことができる。例えば、クリニカルサイエンス分野の指導教員(主)に研究指導を受ける学生が、ライフサイエンス・パブリックヘルスサイエンス分野の指導教員(副)と定期的に行う研究ディスカッションを通じて病気発症のメカニズムや公衆衛生視点からのアドバイスを受けそれらを研究上の課題解決に役立てる。加えて、将来の指導者に必要な、異分野の研究者に対して行う lay term プレゼンテーションの技能を涵養することもできる。また、是正意見をふまえ指導教員(副)が3名以上になる場合の教員体制のデメリットを考慮し、博士課程では「指導教員(副)2名以上」を「指導教員(副)2名」と改める。これにより、指導教員(主)1名と指導教員(副)2名の複数指導教員制で研究

指導を行うことで過度に多くの指導教員（副）が配置されることを避ける。学生にはオリエンテーションの際に、専門分野の異なる専任教員が指導に参加することでよりオープンな学びを担保し、獣医学専攻の教育上の目的として掲げた多角的な視点・手法を用いて諸問題を解決できる協調性・創造性を涵養できるメリットについて指導する。これらの趣旨と指導教員の役割をより明確にするために、「設置の趣旨等を記載した書類」において「V. 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件」「3. 研究指導」及び「VIII. 教員組織の編制の考え方及び特色」「2. 中心となる研究分野」の一部を修正する。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（20 ページ）

新	旧
<p>3. 研究指導</p> <p>本研究科における修士課程及び博士課程の研究指導は、多角的な視野を涵養する目的と閉鎖的な教育環境を避ける目的で、各学生に対して指導教員（主）<u>1 名</u>と指導教員（副）<u>1 名（修士課程）、または 2 名（博士課程）</u>の教員による複数指導教員制で行う。指導教員（主）は修士課程 2 年間又は博士課程 4 年間を通して修学・研究の進捗状況を把握し適宜助言することで<u>研究指導全般に対し責任を持つ</u>とともに、修士論文又は博士論文作成の指導と将来の進路指導を行う。指導教員（副）は担当する学生の進捗状況を随時面談や中間発表会においてヒアリングし、<u>指導教員（主）と協調して異なる視点を持つ研究者として適切なアドバイスを与える</u>。学生は自らの意思に基づき指導教員（主）に加えて指導教員（副）からも適宜アドバイスを受けることができる。</p>	<p>3. 研究指導</p> <p>本研究科における修士課程及び博士課程の研究指導は、多角的な視野を涵養する目的と閉鎖的な教育環境を避ける目的で、各学生に対して指導教員（主）と指導教員（副）の<u>2 名以上</u>の教員による複数指導教員制で行う。指導教員（主）は修士課程 2 年間又は博士課程 4 年間を通して修学・研究の進捗状況を把握し適宜助言するとともに、修士論文又は博士論文作成の指導と将来の進路指導に<u>責任を持つ</u>。指導教員（副）は<u>指導教員（主）</u>とともに担当する学生の進捗状況を随時面談や中間発表会においてヒアリングし、適切なアドバイスを与える。学生は自らの意思に基づき指導教員（主）に加えて指導教員（副）からも適宜アドバイスを受けることができる。</p>

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（33、34 ページ）

新	旧
<p>VIII. 教員組織の編制の考え方及び特色</p> <p>2. 中心となる研究分野</p> <p>本研究科の基軸となる 3 つの研究分野には<u>ほぼ同人数の教員、ライフサイエンス 9 名、</u></p>	<p>VIII. 教員組織の編制の考え方及び特色</p> <p>2. 中心となる研究分野</p> <p>本研究科の基軸となる 3 つの研究分野には<u>ほぼ同人数の教員、ライフサイエンス 9 名、</u></p>

<p>パブリックヘルスサイエンス(感染症・公共獣医事)9名、臨床サイエンス(高度獣医療看護・獣医臨床分野)8名を配置し、<u>修士課程学生1名あたり指導教員(主)1名、指導教員(副)1名が研究指導を担当する。</u>博士課程にはライフサイエンス4名、パブリックヘルスサイエンス2名、臨床サイエンス2名を配置する。博士課程学生1名あたりには指導教員(主)1名、指導教員(副)2名からなる専門分野の異なる3名が連携・協力して研究指導を担当する。</p>	<p>パブリックヘルスサイエンス(感染症・公共獣医事)9名、臨床サイエンス(高度獣医療看護・獣医臨床分野)8名を配置する。</p>
--	---